

「実務経験のある教員等による授業科目一覧表」

吉川福祉専門学校 専門課程 介護福祉科

科 目	区 分	授業 時数
人間の尊厳と自立	講義	30
人間関係とコミュニケーション I	講義	30
社会の理解	講義	90
介護特別演習	演習	30
		180
介護の基本 I	講義	60
介護の基本 II	演習	30
介護の基本 III	講義	60
介護の基本 IV	講義	30
コミュニケーション技術	演習	60
生活支援技術 II	演習	90
生活支援技術 III	演習	120
生活支援技術 IV	演習	30
生活支援技術 V	演習	30
介護過程 I	演習	90
介護過程 II	演習	60
介護総合演習 I	演習	60
介護総合演習 II	演習	60
介護実習 I	実習	262
介護実習 II	実習	188
		1,230
発達と老化の理解	演習	60
認知症の理解	演習	60
障害の理解 II	講義	30
こころとからだのしくみ III	講義	30
		180
医療的ケア I	講義	50
医療的ケア II	演習	30
		80
合 計		1,670

## 2019年度 介護福祉科 教科目概要（シラバス）

領域	授業科目	区分	時間数	開講時期				授業担当者
				1年		2年		
				前期	後期	前期	後期	
人間と社会	人間の尊厳と自立	講義	30	●				濱野厚子 【実務経験者】
《授業概要》 人間の尊厳を福祉のもつ意義から考える。具体的には、生活場面の事例から高齢者や障害を有する人々の尊厳の保持と自立について、介護現場で起こる事例を通して基本となる考え方を学ぶ。個々人の権利としての人権を理解し、利用者の権利侵害の背景や権利擁護、自立のあり方について考える。				《本教科で重要となるキーワード》 人間の尊厳と自立 介護における尊厳の保持・自立支援				
《科目目標（総括目標・総括目標設定の理由）》 尊厳の保持の観点から、どのような状態であってもその人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出したり、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識について習得する。								
《到達目標（具体的行動目標）》 ①生活場面から自立に関する基本的な考え方を学び、基本的ニーズと生活支援の関連を理解する。 ②人権思想がどのような経緯で誕生したかを理解し、歴史的変遷を知る。 ③権利擁護の考え方を理解する。 ④介護場面において、尊厳の保持と自立支援がどのように行われているか理解する。								
授業回数	授業計画						授業外学習及び準備等	
①	「人間の尊厳と自立」の授業のねらいと概要を説明。利用者主体について考える						尊厳を身近に感じる 利用者の生活を知る	
②	「介護福祉士と倫理」介護の専門性や介護の定義を、グループワークを通して知る						介護福祉士になった自分を想像してみる	
③	「人間の尊厳と人権・福祉理念」人間の尊厳の保持とは何か。尊厳と自立をめぐる歴史の流れを学ぶ。						世界の人権の歴史を調べる	
④	「尊厳と自立をめぐる社会の仕組み」尊厳と自立がどのように守られているのかを学ぶ。						日本国憲法第25条・13条の予習	
⑤	「社会福祉領域での人権①」介護を必要とする人の権利とは何かを学ぶ 介護保険法・障害者総合支援法						教科書p13～15 小テスト①	
⑥	「社会福祉領域での人権②」より人間らしく生きることの権利を学ぶ						教科書p24～36	
⑦	「人間の尊厳と自立・人権」尊厳や人権にかかわった人の思想や言動を知る 「マザー・テレサ」映像鑑賞						教科書の見開き「尊厳や人権にかかわった人たち」	
⑧	「人権尊重と権利擁護」利用者の権利擁護とは何かを知る。 ハンセン病患者の事例を通して学ぶ						教科書p36～48	
⑨	「自立のあり方」自立と自己選択・自己決定、自律を学ぶ						教科書p51～59 小テスト②	
⑩	「介護を必要とする人々の自立と自立支援」自立への意欲と動機づけと自立支援の考え方						教科書p60～69	
⑪	「介護における自立支援の実践」ICFの図から自立支援を考える						教科書p70～78	
⑫	終末期介護の倫理の予習として生死について考える。 映像鑑賞「生命の誕生」「在宅で看取るということ」：レポート提出						「生きること」「死ぬこと」を考える 教科書p34 小テスト③	
⑬	介護現場で起こる事例を通して、終末期介護の倫理を考える 前期試験対策						提出したレポート内容を振り返る	
⑭	前期定期試験 学習した内容の振り返り						試験範囲の学習	
⑮	前期定期試験の解答説明 前期に学習した内容のまとめ						尊厳と自立を振り返る	
評価内容・方法	試験	小テスト	レポート	発表	作品・課題	授業態度・参加度	その他	国家試験の対策 過去問題やドリルを行う ①歴史や法制度を理解する ②自立のあり方を多面的に学ぶ ③生き方の尊重・尊厳を理解する
	60%	20%	10%	なし	なし	10%	なし	
使用教科書	最新 介護福祉士養成講座1 「人間の理解」中央法規出版					参考図書	完全図解「新しい介護」講談社 「介護福祉士国家試験過去問2019」中央法規 「介護福祉士国試ナビ」中央法規 他は講義の中で随時紹介する	
学生へのメッセージ	介護福祉士としての倫理観を身につけましょう。そこから介護を展開していきましょう。					履修上の注意	授業中はディスカッションなどにも積極的に参加する。教科書だけではなく、配布資料からも試験問題が出題されるのでまとめておく。	

介護職員(介護福祉士)として数十年間培ってきた介護場面における人間の尊厳と自立支援の知識及び技術を習得させる授業を行う。

## 2019年度 介護福祉科 教科目概要（シラバス）

領域	授業科目	区分	時間数	開講時期				授業担当者
				1年		2年		
				前期	後期	前期	後期	
人間と社会	人間関係とコミュニケーションⅠ	講義	30	●				濱野厚子 【実務経験者】
《授業概要》 人間関係の形成と支援関係における人間関係の形成や、対人関係とコミュニケーションを学び、より良い介護が実践できることを学ぶ。				《本教科で重要となるキーワード》 自己覚知 他者理解 信頼関係 言語的・非言語的コミュニケーション 受容 共感 傾聴				
《科目目標（総括目標・総括目標設定の理由）》 ①介護を必要とする方や他職種協働で進めるチームにおいて、円滑なコミュニケーションをとるための基礎的なコミュニケーション能力を養う。 ②介護の実践のためのわかりやすい説明や的確な記録・記述を行う能力を養う。								
《到達目標（具体的行動目標）》 ①他者理解や情報の伝達に必要なコミュニケーション能力を理解する。 ②介護現場における倫理的課題について対応できるための基礎を身に付ける。 ③多職種協働や信頼関係の下、コミュニケーションが取れるようにする。								
授業回数	授業計画						授業外学習及び準備等	
①	「人間関係とコミュニケーション」の授業のねらいと概要の説明。 自分と他者の理解をジョハリの窓から学ぶ						教科書p80～93	
②	「心理学からみた人間関係①」発達と人間関係をエリクソンの発達段階から学ぶ						教科書p94～108	
③	「心理学からみた人間関係②」 集団のなかの人間関係・対人関係におけるコミュニケーション						教科書p109～130	
④	「対人関係におけるコミュニケーション①」 言語的コミュニケーション・非言語的コミュニケーション						教科書p131～140 小テスト①	
⑤	「対人関係とコミュニケーション②」 受容・共感・傾聴						教科書p141～151	
⑥	「援助の人間関係」 援助関係形成の7原則・バイスティックの7原則から学ぶ						p152～161	
⑦	「組織におけるコミュニケーション」 組織内のコミュニケーション						教科書p162～176 小テスト②	
⑧	「介護実践におけるチームマネジメント①」 ヒューマンサービスとしての介護サービス						教科書p178～186	
⑨	「介護実践におけるチームマネジメント②」 介護現場で求められるチームマネジメント						教科書p187～202	
⑩	「ケアを展開するためのチームマネジメント」チームマネジメントの機能と必要性						教科書p203～219 小テスト③	
⑪	「人材育成・自己研鑽のためのチームマネジメント①」 介護福祉職のキャリアデザイン						教科書p220～231	
⑫	「人材育成・自己研鑽のためのチームマネジメント②」 介護福祉職のキャリア支援・開発						教科書p232～250	
⑬	「組織の目標達成のためのチームマネジメント①」組織の役割・機能、前期試験対策						教科書p251～264 小テスト④	
⑭	前期試験 前駆定期試験 学習した内容の振り返り						試験範囲の学習	
⑮	「組織の目標達成のためのチームマネジメント②」 前期試験の解説 介護サービスを支える組織の管理						教科書p265～274	
評価内容・方法	試験	小テスト	レポート	発表	作品・課題	授業態度・参加度	その他	国家試験の対策 過去問題・ドリルを行う 人間関係に関する言語を覚える
	60%	20%	なし	10%	なし	10%	なし	
使用教科書	最新 介護福祉士養成講座1 「人間の理解」中央法規出版						参考図書 完全図解「新しい介護」講談社 「介護福祉士国家試験過去問2019」中央法規 「介護福祉士国試ナビ」中央法規	
学生へのメッセージ	自分を知ることからコミュニケーションを始めましょう。						履修上の注意 授業中はディスカッションなどにも積極的に参加する。教科書だけではなく、配布資料からも試験問題が出題されるのでまとめておく。	

介護職員(介護福祉士)として介護業務に従事した際に経験した人間関係の形成や対人関係とのコミュニケーションを踏まえ、より良い介護が実践できるように円滑なコミュニケーションをとるための基礎的能力を習得させる授業を行う。

## 2019年度 介護福祉科 教科目概要（シラバス）

領域	授業科目	区分	時間数	開講時期				授業担当者	
				1年		2年			
				前期	後期	前期	後期		
人間と社会	社会の理解	講義	30	●				小針臣子 【実務経験者】	
《授業概要》 個人を尊重すると同時に人は社会的な存在であることを理解すること、「バイオ・サイコ・ソーシャル・スピリチュアル」の視点から人間を捉え、介護過程の展開においても情報収集の視点を広げ、アセスメント、課題解決を図る際に本科目で得た自助から公助および諸制度の知識を活用できるようにするため、日ごろから社会と自分との関わりを意識できるように、意見交換をしたり、課題を課す。基礎知識の定着を図るための小テストを実施する。				《本教科で重要となるキーワード》 「社会生活」「家族と家庭」「ライフスタイル」「地域共生社会」「地域包括ケア」「社会保障」「介護保険制度」「障害者総合支援制度」「個人の権利」「貧困対策」					
《科目目標（総括目標・総括目標設定の理由）》 個人が自立した生活を営むということを理解するため、個人、家族、近隣、地域、社会の単位で人間を捉える視点を養い、人間の生活と社会の関わりや自助から公助に至る過程について理解する学習である。 地域社会における生活とその支援についての基礎的な知識、および介護実践に必要な社会保障の制度・施策についての基礎的な知識を習得する。									
《到達目標（具体的行動目標）》 ①人は社会的な存在であることを理解し、人を様々な視点でとらえ、課題と活用できる諸制度などと関連付けることができる。 ②個人や家族で行われてきた「支援」を「社会」で行うようになってきた理由を理解し説明できる。 ③社会保障制度の基本的な知識を習得し、必要な知識を必要な時に活用することができる。 ④介護保険制度をはじめとする人々の生活を支える制度の創設の背景から改革の歴史を理解し、現在の仕組みを説明できる。									
授業回数	授業計画						授業外学習及び準備等		
①	授業説明（授業の概要、進め方、評価基準等） 人間と社会とは								
②	人間をとらえる複合的視点・社会生活のメカニズム								
③	生活の基本機能 生活の多様性を捉える視点「家族」と「家庭」の違い 家庭機能の特徴								
④	生活の基本機能 家庭機能の特徴								
⑤	ライフスタイルの変化 生活と働き方の変化 少子高齢化と健康寿命						小テスト		
⑥	家族の機能と役割 家族の概念とその変容 家族の構造や形態								
⑦	家族の機能と役割 家族の機能とその変化 家族観の多様化								
⑧	社会・組織の機能と役割 社会・組織の概念 社会・組織の機能と役割								
⑨	社会・組織の機能と役割 グループ支援、組織化、エンパワメント						小テスト		
⑩	地域・地域社会 地域・地域社会の概念 産業化・都市化、過疎化								
⑪	地域・地域社会 自助・互助・共助・公助								
⑫	地域社会における生活支援 地域社会の変化 地域の集団、組織による生活支援						課題		
⑬	地域福祉の発展 地域福祉の理念 地域福祉の歴史的展開								
⑭	地域福祉の発展 地域福祉の充実 災害と地域福祉						小テスト		
⑮	地域共生社会								
評価内容・方法	試験	小テスト	レポート	発表	作品・課題	授業態度・参加度	その他	国家試験の対策 小テスト、練習問題を実施します。 国家試験受験ワークブックも復習に活用しましょう。	
	70%	10%	なし	なし	10%	10%	なし		
使用教科書	最新 介護福祉士養成講座2 「社会の理解」中央法規出版					参考図書	社会福祉小六法 介護福祉士国家試験受験ワークブック2020上 随時授業内で参考図書の紹介をします。		
学生へのメッセージ	苦手意識を持たないようにしましょう。日頃からニュースや新聞記事に関心を持ち、自分の生活に結び付けていくと身近に感じられます。					履修上の注意	わからない言葉は、そのままにしないでようにしましょう。復習が大切です。配布したプリントはファイルするなど整理しましょう。		
<b>看護師として施設、企業、老人介護支援センター及び地域包括支援センターでの利用者を取り巻く家族も合わせて支援してきた経験を生かして地域社会における生活とその支援についての基礎的な知識及び介護実践に必要な社会保障制度・施策についての基礎的な知識を習得させる授業を行う。</b>									

## 2019年度 介護福祉科 教科目概要（シラバス）

領域	授業科目	区分	時間数	開講時期				授業担当者
				1年		2年		
				前期	後期	前期	後期	
人間と社会	社会の理解	講義	30	●				小針臣子 【実務経験者】
《授業概要》 個人を尊重すると同時に人は社会的な存在であることを理解すること、「バイオ・サイコ・ソーシャル・スピリチュアル」の視点から人間を捉え、介護過程の展開においても情報収集の視点を広げ、アセスメント、課題解決を図る際に本科目で得た自助から公助および諸制度の知識を活用できるようにするため、日ごろから社会と自分との関わりを意識できるように、意見交換をしたり、課題を課す。基礎知識の定着を図るための小テストを実施する。				《本教科で重要となるキーワード》 「社会生活」「家族と家庭」「ライフスタイル」「地域共生社会」「地域包括ケア」「社会保障」「介護保険制度」「障害者総合支援制度」「個人の権利」「貧困対策」				
《科目目標（総括目標・総括目標設定の理由）》 個人が自立した生活を営むということを理解するため、個人、家族、近隣、地域、社会の単位で人間を捉える視点を養い、人間の生活と社会の関わりや自助から公助に至る過程について理解する学習である。 地域社会における生活とその支援についての基礎的な知識、および介護実践に必要な社会保障の制度・施策についての基礎的な知識を習得する。								
《到達目標（具体的行動目標）》 ①人は社会的な存在であることを理解し、人を様々な視点でとらえ、課題と活用できる諸制度などと関連付けることができる。 ②個人や家族で行われてきた「支援」を「社会」で行うようになってきた理由を理解し説明できる。 ③社会保障制度の基本的な知識を習得し、必要な知識を必要な時に活用することができる。 ④介護保険制度をはじめとする人々の生活を支える制度の創設の背景から改革の歴史を理解し、現在の仕組みを説明できる。								
16	地域包括ケア 地域包括ケアの理念 地域包括ケアシステム							課題
17	社会保障の基本的な考え方 社会保障のイメージをつかむ 社会保障の意義と役割							
18	社会保障の基本的な考え方 社会保障の目的と機能							
19	社会保障の基本的な考え方 ライフサイクルからみた社会保障							小テスト
20	日本の社会保障制度の発達 社会保障制度の歴史を学ぶ意義 日本国憲法と社会保障							
21	日本の社会保障制度の発達 戦後社会と社会保障の基盤整備 国民皆保険・皆年金の確立							
22	日本の社会保障制度の発達 社会保障の拡充 社会保障の見直し							
23	日本の社会保障制度の発達 介護保険と福祉の考え方の変化 社会保障改革							
24	社会・組織の機能と役割 グループ支援、組織化、エンパワメント							小テスト
25	日本の社会保障制度のしくみ 社会保障の体系 年金保険 医療保険 介護保険							
26	日本の社会保障制度のしくみ 雇用保険と労働者災害保険 各種社会扶助							
27	現代社会と社会保障制度（外部講師予定）							
28	試験対策							
29	定期試験							
30	定期試験振り返り							
評価内容・方法	試験	小テスト	レポート	発表	作品・課題	授業態度・参加度	その他	国家試験の対策
	70%	10%	なし	なし	10%	10%	なし	小テスト、練習問題を実施します。国家試験受験ワークブックも復習に活用しましょう。
使用教科書	最新 介護福祉士養成講座2 「社会の理解」中央法規出版				参考図書			社会福祉小六法 介護福祉士国家試験受験ワークブック2020上 随時授業内で参考図書の紹介をします。
学生へのメッセージ	苦手意識を持たないようにしましょう。日頃からニュースや新聞記事に関心を持ち、自分の生活に結び付けていくと身近に感じられます。				履修上の注意			わからない言葉は、そのままにしないでください。復習が大切です。配布したプリントはファイルするなど整理しましょう。

## 2019年度 介護福祉科 教科目概要（シラバス）

領域	授業科目	区分	時間数	開講時期				授業担当者
				1年		2年		
				前期	後期	前期	後期	
人間と社会	社会の理解	講義	30		●			小針臣子 【実務経験者】
《授業概要》 個人を尊重すると同時に人は社会的な存在であることを理解すること、「バイオ・サイコ・ソーシャル・スピリチュアル」の視点から人間を捉え、介護過程の展開においても情報収集の視点を広げ、アセスメント、課題解決を図る際に本科目で得た自助から公助および諸制度の知識を活用できるようにするため、日ごろから社会と自分との関わりを意識できるように、意見交換をしたり、課題を課す。基礎知識の定着を図るための小テストを実施する。				《本教科で重要となるキーワード》 「社会生活」「家族と家庭」「ライフスタイル」「地域共生社会」「地域包括ケア」「社会保障」「介護保険制度」「障害者総合支援制度」「個人の権利」「貧困対策」				
《科目目標（総括目標・総括目標設定の理由）》 個人が自立した生活を営むということを理解するため、個人、家族、近隣、地域、社会の単位で人間を捉える視点を養い、人間の生活と社会の関わりや自助から公助に至る過程について理解する学習である。 地域社会における生活とその支援についての基礎的な知識、および介護実践に必要な社会保障の制度・施策についての基礎的な知識を習得する。								
《到達目標（具体的行動目標）》 ①人は社会的な存在であることを理解し、人を様々な視点でとらえ、課題と活用できる諸制度などと関連付けることができる。 ②個人や家族で行われてきた「支援」を「社会」で行うようになってきた理由を理解し説明できる。 ③社会保障制度の基本的な知識を習得し、必要な知識を必要な時に活用することができる。 ④介護保険制度をはじめとする人々の生活を支える制度の創設の背景から改革の歴史を理解し、現在の仕組みを説明できる。								
授業回数	授業計画						授業外学習及び準備等	
①	高齢者保健福祉の動向							
②	高齢者保健福祉に関連する法体系							
③	介護保険制度 介護保険制度創設の背景と目的 介護保険制度のしくみの基本的理解①						小テスト	
④	介護保険制度の仕組みと基本的理解②							
⑤	介護保険制度の仕組みと基本的理解③						小テスト	
⑥	介護保険制度の仕組みと基本的理解④							
⑦	介護保険制度の仕組みと基本的理解⑤							
⑧	障害者保健福祉の動向 障害者福祉の現状 障害者福祉の歴史 障害者福祉の動向						小テスト	
⑨	社会・組織の機能と役割 グループ支援、組織化、エンパワメント							
⑩	障害者総合支援法 自立支援給付と地域生活支援事業 障害福祉サービスの種類と内容、利用手続き						外部講師予定 課題	
⑪	介護実践に関連する諸制度 個人の権利を守る制度・施策							
⑫	介護実践に関連する諸制度 保健医療に関する制度・施策 貧困対策・生活困窮者支援に関する制度・施策						課題	
⑬	介護実践に関連する諸制度 地域生活を支援する制度・施策 試験対策							
⑭	定期試験							
⑮	定期試験振り返り							
評価内容・方法	試験	小テスト	レポート	発表	作品・課題	授業態度・参加度	その他	国家試験の対策 小テスト、練習問題を実施します。 国家試験受験ワークブックも復習に活用しましょう。
	70%	10%	なし	なし	10%	10%	なし	
使用教科書	最新 介護福祉士養成講座2 「社会の理解」中央法規出版				参考図書			社会福祉小六法 介護福祉士国家試験受験ワークブック2020上 随時授業内で参考図書の紹介をします。
学生へのメッセージ	苦手意識を持たないようにしましょう。日頃からニュースや新聞記事に関心を持ち、自分の生活に結び付けていくと身近に感じられます。				履修上の注意			わからない言葉は、そのままにしないでようにしましょう。復習が大切です。 配布したプリントはファイルするなど整理しましょう。

## 2019年度 介護福祉科 教科目概要（シラバス）

領域	授業科目	区分	時間数	開講時期				授業担当者
				1年		2年		
				前期	後期	前期	後期	
人間と社会	介護特別演習	演習	30				●	池上千恵美 【実務経験者】
《授業概要》 介護福祉士資格取得に向けた国家試験対策、卒業するために必要な学習を行う。							《本教科で重要となるキーワード》 卒業 介護福祉士国家試験 就職 卒業研究	
《科目目標（総括目標・総括目標設定の理由）》 介護福祉士として必要な介護実践を支える教養を高め、総合的な判断力及び豊かな人間性を養う。								
《到達目標（具体的行動目標）》 介護専門職としての介護福祉士のあり方を理解し、国家資格取得可能な学力を習得する。 卒業にふさわしい能力を習得する。								
授業回数	授業計画						授業外学習及び準備等	
①	授業説明 就職指導面談 就職未内定学生						就職情報収集など就職活動をする。	
②	就職指導面談 就職未内定学生						就職情報収集など就職活動をする。	
③	就職指導面談 就職未内定学生						就職情報収集など就職活動をする。	
④	国家試験対策						合格に向け受験勉強計画を実施する。	
⑤	国家試験対策						合格に向け受験勉強計画を実施する。	
⑥	国家試験対策						合格に向け受験勉強計画を実施する。	
⑦	学力評価試験対策						合格に向け受験勉強計画を実施する。	
⑧	学力評価試験対策						合格に向け受験勉強計画を実施する。	
⑨	学力評価試験解説						試験結果をアセスメントする。	
⑩	就職指導面談 就職未内定学生						就職情報収集など就職活動をする。	
⑪	卒業研究に関わる演習						卒業研究をまとめる。	
⑫	卒業研究に関わる演習						卒業研究をまとめる。	
⑬	介護福祉士登録申請手続き説明 卒業時書類氏名確認							
⑭	卒業研究に関わる演習						卒業研究をまとめる。	
⑮	卒業研究に関わる演習						卒業研究をまとめる。	
評価内容・方法	試験	小テスト	レポート	発表	作品・課題	授業態度・参加度	その他	国家試験の対策
	なし	なし	なし	なし	なし	100%	なし	
使用教科書							参考図書	授業の中で随時紹介する。
学生へのメッセージ	卒業に向けて、就職内定、国家試験受験勉強、卒業研究に意欲的に取り組む。						履修上の注意	卒業に必要な内容であるから、毎回出席する。

介護職員(介護福祉士)としての勤務に加え介護福祉士養成施設における教育経験を生かし、介護福祉士資格取得に向けた国家試験対策及び介護専門職としての介護福祉士のあり方を理解させる卒業研究をまとめる授業を行う。

## 2019年度 介護福祉科 教科目概要（シラバス）

領域	授業科目	区分	時間数	開講時期				授業担当者	
				1年		2年			
				前期	後期	前期	後期		
介護	介護の基本Ⅰ	講義	30	●				大澤町子 【実務経験者】	
<p>《授業概要》 介護の成り立ちや概念の変遷について説明を行い、介護福祉の基本理念を通して「尊厳の保持、自立支援」について具体的に理解できるように、説明する。介護福祉士の活動の場と役割、「社会福祉士及び介護福祉士法」について説明し、介護福祉士養成カリキュラムの変遷についても説明する。</p> <p>《科目目標（総括目標・総括目標設定の理由）》 「老人福祉法が成立した社会的背景を理解できて、制定後の介護に関連する施策を理解する。介護福祉の基本となる理念を理解する。尊厳を支える介護に関わるノーマライゼーション、QOLなどの考え方、自立を支える介護に関わる自己決定や利用者主体について理解する。介護福祉士の活動の場と役割、「社会福祉士及び介護福祉士法」について理解する。介護福祉士養成カリキュラムの変遷を理解する。</p> <p>《到達目標（具体的な行動目標）》 老人福祉法が成立した背景を理解して、制定後の介護に関連する施策を理解出来て、説明することが出来る。介護福祉の理念である尊厳を支える介護に関わるノーマライゼーション、QOL、自立を支える介護に関する自己決定や利用者主体についてよく理解し説明できる。介護福祉士の活動の場と役割、「社会福祉士及び介護福祉士法」について理解出来て、詳しく説明することが出来る。</p>								《本教科で重要となるキーワード》 介護福祉の基本理念 「尊厳の保持と自立支援」	
授業回数	授業計画						授業外学習及び準備等		
①	オリエンテーションにて授業概要の説明、評価について。レポート作成。自己紹介						レポート作成用紙 P2～P10を通読（予習）		
②	介護の成り立ち 介護と介護サービス～介護問題への対応が始まるまでの社会福祉政策						公的救済制度、小テスト P11～P22を通読（予習）		
③	介護の成り立ち 特別養護老人ホーム。専門職による「介護」が誕生した社会的な背景						P23～P30を通読（予習） 覚えようとしているサービス内容		
④	介護の概念の変遷 1970年代～ ゴールドプランの策定						P31～P39を通読（予習） 身体拘束についてのレジュメ		
⑤	介護の概念の変遷 1990年代～ 介護保険法について						介護問題の背景、高齢化の状況 P39～P46を通読		
⑥	介護の概念の変遷 訪問介護における介護サービスの内容～社会福祉士法及び介護福祉士法2011年						介護保険のサービス対象になる P47～P51を通読 小テスト実施		
⑦	介護福祉の基本理念 介護福祉の理念とは～ その人らしい生活の充実感を高める						P52～P57を通読		
⑧	介護福祉の基本理念 自立を支える介護～ 尊厳を支える介護（演習1-3）（演習1-4）						P60～P68を通読		
⑨	介護福祉士の活動の場と役割 地域包括ケアシステム～ 介護福祉士の活動の場と役割						P68～P76を通読		
⑩	介護福祉士の活動の場と役割 人生の最終段階の支援～介護福祉士の活動の場と役割（演習2-1）						高齢化の状況 P77～P85を通読		
⑪	社会福祉士及び介護福祉士法 心身の状況に応じた介護を考える（演習2-2）介護福祉士の義務規定						小テスト実施 P86～P98を通読		
⑫	介護福祉士養成カリキュラムの変遷						P99～P107を通読		
⑬	前期総復習								
⑭	定期試験						前期試験		
⑮	試験答案返し、解説・後期に向けて						解答・解説のレジュメ		
評価内容・方法	試験	小テスト	レポート	発表	作品・課題	授業態度・参加度	その他	国家試験の対策 介護福祉の基本理念、社会福祉士及び介護福祉士法の理解、地域包括ケアシステム、介護予防	
	60%	7.5%	2.5%	なし	なし	30%	なし		
使用教科書	最新 介護福祉士養成講座3 「介護の基本Ⅰ」中央法規出版					参考図書	介護福祉士国試ナビ		
学生へのメッセージ	豊かな知識と確かな技術、クールヘッドと熱いハート、笑顔を忘れずに利用者の生きる意欲を引き出せるような介護職を目指しましょう					履修上の注意			
<p><b>介護職員（介護福祉士）及び介護支援専門員としての勤務経験を生かし、老人福祉法が成立した背景を理解して、制定後の介護に関連する施策を理解出来て、説明することが出来る。介護福祉の理念である尊厳を支える介護に関わるノーマライゼーション、QOL、自立を支える介護に関する自己決定や利用者主体についてよく理解し説明できる。介護福祉士の活動の場と役割、「社会福祉士及び介護福祉士法」について理解出来て、詳しく説明することが出来る授業を行う。</b></p>									

## 2019年度 介護福祉科 教科目概要（シラバス）

領域	授業科目	区分	時間数	開講時期				授業担当者
				1年		2年		
				前期	後期	前期	後期	
介護	介護の基本Ⅰ	講義	30		●			大澤町子 【実務経験者】
<p>《授業概要》</p> <p>「介護福祉士の倫理」では、介護福祉の専門性と倫理を理解し、介護福祉士に求められる専門職としての態度を具体的に説明することが出来る。「自立に向けた介護福祉のあり方」では、ICFの視点に基づくアセスメントを理解し、エンパワメントの観点から、リハビリテーション等を理解させる。</p> <p>《科目目標（総括目標・総括目標設定の理由）》</p> <p>介護にたずさわる人もつ職業倫理と、普遍的な倫理判断の視点を学び、介護の場面でどういさせるかを考えることが出来る。日本介護福祉士の倫理綱領と行動規範を例に、介護福祉の専門性と倫理を理解する。自立支援の具体的な考え方と利用者の意思決定を支える方法について、自立支援におけるエンパワメントとICFの意義について理解する。ICFにおける生活機能と各因子との相互作用について理解する。ICFやストレングスの視点を介護の実践に応用する視点をもつ。自立支援とリハビリテーションのなかでの介護福祉士の役割について理解する。</p> <p>《到達目標（具体的行動目標）》</p> <p>職業倫理と倫理判断の視点を学び、さまざまな介護の場面でどういさせるかを理解出来て、説明することが出来る。具体的に日本介護福祉士の倫理綱領や行動規範を例に、介護福祉の専門性と倫理を理解し説明することが出来る。自立支援の具体的な考え方と利用者の意思決定を支える方法についてエンパワメントとICFの意義についても理解でき説明できる。ICFにおける生活機能と各因子との相互作用について具体的に理解でき詳しく説明することが出来る。</p>								
授業回数	授業計画						授業外学習及び準備等	
①	介護福祉士の倫理 介護にたずさわる人もつべき職業倫理～プライバシーの保護と介護の倫理						P110～P117通読	
②	高齢者虐待と生命倫理（介護の倫理）～認知症ケアでの場面						P118～P128通読	
③	「実習生が見た介護施設の実際」における倫理的判断が必要な介護福祉士の対応						レポート用紙作成	
④	日本介護福祉士の倫理綱領						P125～P135通読	
⑤	自立に向けた介護福祉のあり方 自立支援の考え方						「自立」と「自律」に向けた支援	
⑥	自立に向けた介護福祉のあり方 ICFの考え方						P147～P154通読 小テスト	
⑦	自立に向けた介護福祉のあり方 自立支援とリハビリテーション、リハビリテーションの概念、理念、考え方と背景と歴史						P155～P161通読 ユニバーサルデザイン	
⑧	自立支援とリハビリテーションの実際 リハビリテーションの目的と役割、リハビリテーションの体系、領域、主な専門職						P161～P167通読	
⑨	リハビリテーションを考えるうえでの障害の理解と評価 健康の概念、障害のとらえ方、ADLの概念と評価方法、QOLの概念						P168～P175通読 小テスト	
⑩	自立支援と介護予防 介護予防の概要、介護予防の種類と特徴						P176～P184通読	
⑪	自立支援と介護予防 高齢者の身体特性と介護予防、介護予防の実際						P184～P189通読 高齢者の身体と心の特質	
⑫	自立支援と介護予防、各種プログラム例 （筋力向上、転倒予防、栄養改善、口腔機能向上、尿失禁予防、認知症予防）						P188～P199通読 小テスト	
⑬	後期総復習						P110～P199通読	
⑭	定期試験						後期試験	
⑮	試験答案返し、解説、1年の振り返り						解答・解説のレジュメ	
評価内容・方法	試験	小テスト	レポート	発表	作品・課題	授業態度・参加度	その他	国家試験の対策
	60%	7.5%	2.5%	なし	なし	30%	なし	
使用教科書	最新 介護福祉士養成講座3 「介護の基本Ⅰ」中央法規出版				参考図書	介護福祉士国試ナビ		
学生へのメッセージ	豊かな知識と確かな技術、クールヘッドと熱いハート、笑顔を忘れずに利用者の生きる意欲を引き出せるような介護職を目指しましょう				履修上の注意			

## 2019年度 介護福祉科 教科目概要（シラバス）

領域	授業科目	区分	時間数	開講時期				授業担当者	
				1年		2年			
				前期	後期	前期	後期		
介護	介護の基本Ⅱ	演習	30	●				池上千恵美 【実務経験者】	
《授業概要》 生活支援技術の意義を理解し、自立に向けた「身じたく」「移動」「食事」「入浴」「清潔保持」「排泄」「休息・睡眠」の介護について学ぶ。							《本教科で重要となるキーワード》 自立に向けた介護 生活支援技術		
《科目目標（総括目標・総括目標設定の理由）》 「尊厳の保持」「自立支援」という新しい介護の考え方を理解するとともに、「介護を必要とする人」を生活の観点から捉えるための学習とする。また、介護における安全やチームケア等について理解するための学習とする。									
《到達目標（具体的行動目標）》 介護を必要とする人の日常生活動作の基本的な生活支援技術（介護技術）が習得できる。									
授業回数	授業計画							授業外学習及び準備等	
①	授業説明 生活支援の理解 生活支援、生活支援技術の意味							生活支援技術Ⅰ教科書p2-11	
②	生活支援の理解 生活支援のあり方、生活支援の目標							生活支援技術Ⅰ教科書p2~11 p16-21	
③	睡眠の介護 睡眠における介護技術 ベッドメイキング							教科書p216~219 p227~232	
④	睡眠の介護 睡眠における介護技術 ベッドメイキング							教科書p227~232	
⑤	睡眠の介護 睡眠における介護技術 ベッドメイキング							教科書p227~232	
⑥	移動の介護 移動の意義と目的 ボディメカニクス							生活支援技術Ⅰ教科書p40~52	
⑦	移動の介護 移動・移乗の介護技術 体位変換							生活支援技術Ⅰ教科書p40~52	
⑧	移動の介護 移動・移乗の介護技術 体位変換							生活支援技術Ⅰ教科書p53~59	
⑨	身じたくの介護 身じたくの意義と目的 衣服着脱の介護技術							教科書p2~5 p47~58	
⑩	食事の介護 食事の意義と目的 食事における介護技術							教科書p74~95	
⑪	排泄の介護 排泄の意義と目的 排泄における介護技術							教科書p158~207	
⑫	入浴の介護 入浴の意義と目的 入浴における介護技術							教科書p104~123	
⑬	実技試験 ベッドメイキング							教科書p227~232	
⑭	前期試験							これまでの学習内容をまとめる。	
⑮	前期試験解説 前期の学習を振り返る。								
評価内容・方法	試験	小テスト	レポート	発表	作品・課題	授業態度・参加度	その他（実技試験）	国家試験の対策	生活支援技術は全問題の20%を占める。基本的な知識と技術を理解していれば解ける。ここからだのしくみと関連している。なぜその支援技術が必要なのか根拠を理解する。
	40%	なし	10%	なし	なし	10%	40%		
使用教科書	最新 介護福祉士養成講座6・7 「生活支援技術Ⅰ・Ⅱ」中央法規出版					参考図書	授業の中で随時紹介する。		
学生へのメッセージ	この科目は「ここからだのしくみ」と関連しているので、心身機能について理解をしておく。					履修上の注意	身だしなみを整えて演習に望む。		
介護職員(介護福祉士)としての勤務経験を生かし、「介護を必要とする人」を生活の観点から捉えるための学習と介護における安全やチームケア等について理解すると共に介護を必要とする人の日常生活動作の基本的な生活支援技術(介護技術)を習得する授業を行う。									

## 2019年度 介護福祉科 教科目概要（シラバス）

領域	授業科目	区分	時間数	開講時期				授業担当者	
				1年		2年			
				前期	後期	前期	後期		
介護	介護の基本Ⅲ	講義	30	●				濱野厚子 【実務経験者】	
《授業概要》 介護を必要とする人の尊厳ある生活を支援する専門職として、基礎となる考え方を学び、「生活ニーズ」や「その人らしさ」を大切にすることを理解する。また、介護福祉士の多様、複雑、高度な専門職としての社会的役割を理解する。				《本教科で重要となるキーワード》 介護・介護福祉士・自立生活への支援・社会資源・リスクマネジメント・感染予防					
《科目目標（総括目標・総括目標設定の理由）》 「尊厳の保持」「自立支援」という新しい介護の考え方を理解するとともに、「介護を必要とする人」を生活の観点から捉えるための学習とする。また、介護における安全やチームケア等について理解するための学習とする。									
《到達目標（具体的行動目標）》 ①介護を必要としている人について理解し、生活能力や意欲を引き出すことの必要性、自立に向けた支援について理解できる。 ②介護を必要とする人及び家族のさまざまな生活上の課題を理解する。 ③生活上の課題の解決のために必要なサービスや地域の社会資源を理解する。 ④介護福祉職に必要な感染に関する正しい知識を学ぶ。									
授業回数	授業計画						授業外学習及び準備等		
①	「介護の基本Ⅲ」の授業のねらいと概要を説明 介護福祉を必要とする人の生活						教科書p2～11		
②	「介護福祉を必要とする人たちの暮らし」 介護を必要とする高齢者・障害者の暮らし 動画鑑賞とレポート						教科書p12～32		
③	「その人らしさと、生活のニーズ」 生活のしずらさの理解と支援						教科書p33～45 小テスト①		
④	「介護福祉を必要とする人の生活支援①」 高齢者のためのフォーマルサービス						教科書p48～53		
⑤	「介護福祉を必要とする人の生活支援②」 障害者のためのフォーマルサービス・インフォーマルサービス						教科書p54～67		
⑥	「地域連携」 利用者を取り巻く地域連携						教科書p68～82		
⑦	「介護におけるリスクマネジメント①」 介護における安全の確保						教科書p84～92 小テスト②		
⑧	介護ロボット・HALの体験学習 実際に介護ロボット・HALを使用して基本的動作を覚えよう								
⑨	「介護におけるリスクマネジメント②」 利用者の権利を守る 身体拘束とは						教科書p93～102		
⑩	「介護におけるリスクマネジメント③」 事故防止対策						教科書p103～114		
⑪	「介護におけるリスクマネジメント④」 感染症対策①						教科書p115～126 小テスト③		
⑫	「介護におけるリスクマネジメント⑤」 感染症対策②						教科書p127～137		
⑬	前期試験対策 試験のポイントを説明						試験範囲の学習 小テスト④		
⑭	前期試験 学習した内容の振り返り								
⑮	前期試験解説と授業のまとめ						前期試験の復習		
評価内容・方法	試験	小テスト	レポート	発表	作品・課題	授業態度・参加度	その他	国家試験の対策 過去問題、合格ドリルを行う	
	60%	20%	10%	なし	なし	10%	なし		
使用教科書	最新 介護福祉士養成講座4 「介護の基本Ⅱ」中央法規出版					参考図書	完全図解「新しい介護」講談社・「介護リスクマネジメント（トラブル対策編）（事故防止編）」講談社・「介護福祉士国家試験過去問2019」中央法規・「介護福祉士国試ナビ」中央法規 他は授業時に紹介		
学生へのメッセージ	介護を必要とする人を取り巻く環境を理解して、介護福祉士としての視点を持ちましょう。					履修上の注意	授業中はディスカッションなどにも積極的に参加する。教科書だけではなく、配布資料からも試験問題が出題されるのでまとめておく。		
介護職員（介護福祉士）としての勤務経験を生かし、①介護を必要としている人について理解し、生活能力や意欲を引き出すことの必要性、自立に向けた支援について理解②介護を必要とする人及び家族のさまざまな生活上の課題を理解③生活上の課題の解決のために必要なサービスや地域の社会資源を理解④介護福祉職に必要な感染に関する正しい知識を学ぶ授業を行う。									

## 2019年度 介護福祉科 教科目概要（シラバス）

領域	授業科目	区分	時間数	開講時期				授業担当者	
				1年		2年			
				前期	後期	前期	後期		
介護	介護の基本Ⅲ	講義	30		●			濱野厚子 【実務経験者】	
《授業概要》 住み慣れた地域で可能な限り生活をしたいと願っている高齢者や障がい者に対し、サービス提供方法と多職種連携の必要性を学ぶ。介護の理念を現実するために、倫理・知識・技術を統合し、利用者の生活の観点から「介護の基本」と「生活支援技術」を関連づけ、基礎的な力を培い、実践力を高めることを目指す。				《本教科で重要となるキーワード》 多職種連携・多職種協働・介護従事者の安全					
《科目目標（総括目標・総括目標設定の理由）》 介護を理解する人の「尊厳の保持」や「自立支援」を目指した介護を展開していく。 介護従事者の安全に関する理念や知識を学び、生活支援技術や介護実習に役立てられるようになる。									
《到達目標（具体的行動目標）》 ①多職種連携・地域連携の意味と必要性、その実際について理解できる。 ②介護実践におけるチームとは何か、多職種の役割りを学び、チームワークの意義・連携方法を理解する。 ③多職種や地域との連携においても1人の気づきが重要であることを理解する。 ④介護従事者の安全・健康管理を保障するための知識・技術を活用できるようにする									
授業回数	授業計画						授業外学習及び準備等		
①	「協働する多職種の機能と役割①」多職種連携・協働の必要性と目的						教科書p140～151		
②	「協働する多職種の機能と役割②」多職種連携・協働の意義						教科書p152～162		
③	「協働する多職種の機能と役割③」 多職種連携協働に求められるコミュニケーション能力						教科書p163～172		
④	「協働する多職種の機能と役割④」保健・医療・福祉職の役割と機能						教科書p173～182 小テスト①		
⑤	「協働する多職種の機能と役割⑤」多職種連携・協働の実際						教科書p183～191		
⑥	「協働する多職種の機能と役割⑥」自立支援介護における多職種連携の実際						教科書p192～198		
⑦	「介護従事者の安全①」健康管理の意義と目的 労働とは						教科書p199～209		
⑧	「介護従事者の安全②」健康に働くための健康管理						教科書p210～221 小テスト②		
⑨	「介護従事者の安全③」精神面での健康管理						教科書p222～230		
⑩	「介護従事者の安全④」身体の健康管理 腰痛、頸肩腕障がい						教科書p231～239		
⑪	「介護従事者の安全⑤」福祉用語を使用した介護技術 動画鑑賞						教科書p240～248 小テスト③		
⑫	「労働環境の整備①」事例で考える労働環境						教科書p249～258		
⑬	「労働環境の整備②」事故の発生構造を考える 後期試験対策						教科書p259～264		
⑭	後期試験 学習した内容の振り返り						試験範囲の学習		
⑮	後期試験解説と授業のまとめ						前期試験の復習		
評価内容・方法	試験	小テスト	レポート	発表	作品・課題	授業態度・参加度	その他	国家試験の対策	過去問題、合格ドリルを行う
	60%	20%	10%	なし	なし	10%	なし		
使用教科書	最新 介護福祉士養成講座4 「介護の基本Ⅱ」中央法規出版					参考図書	完全図解「新しい介護」講談社・「介護リスクマネジメント（トラブル対策編）（事故防止編）」講談社・「介護福祉士国家試験過去問2019」中央法規・「介護福祉士国試ナビ」中央法規 他は授業時に紹介		
学生へのメッセージ	介護福祉士の役割りを学び、介護の仕事のやりがいを実感しましょう。					履修上の注意	授業中はディスカッションなどにも積極的に参加する。教科書だけではなく、配布資料からも試験問題が出題されるのでまとめておく。		

## 2019年度 介護福祉科 教科目概要（シラバス）

領域	授業科目	区分	時間数	開講時期				授業担当者	
				1年		2年			
				前期	後期	前期	後期		
介護	介護の基本Ⅳ	講義	30				●	小針臣子 【実務経験者】	
《授業概要》 リハビリテーションの考え方とその背景、リハビリテーションの画幅、リハビリテーションにおける介護福祉士の役割、関係職種との連携を学び、「自立支援」「尊厳保持」「介護予防」の具体的な実践をイメージできるようにします。				《本教科で重要となるキーワード》 リハビリテーション・全人的復権 ノーマライゼーション・インクルージョン ADL・IADL・自立・自立支援・					
《科目目標（総括目標・総括目標設定の理由）》 リハビリテーションとは何か、リハビリテーションの考え方と介護との関連性を学ぶことで、対象者の「尊厳の保持」「自立支援」を実践する力の基礎となる考え方を学びます。 「介護予防」の視点から地域包括ケアシステムの中での介護福祉士としての姿勢を学びます。									
《到達目標（具体的行動目標）》 ①介護予防やリハビリテーションの意義や目的を説明できる。 ②対象者のできることを活かす視点、技術を介護実践に関連づけることができる。 ③ひとのあるべき姿を理解し対象者の尊厳を尊重した介護実践ができる。									
授業回数	授業計画						授業外学習及び準備等		
①	授業説明 介護福祉士がリハビリテーションを学ぶ意義								
②	リハビリテーションとは リハビリテーションの概念								
③	リハビリテーションの考え方とその背景・歴史						小テスト①		
④	リハビリテーションの目的と役割								
⑤	リハビリテーションの体系と領域の理解								
⑥	リハビリテーション分野に従事する関係職種と連携								
⑦	リハビリテーションを考えるうえでの障害の理解と評価（ADLとIADL）						小テスト②		
⑧	リハビリテーションと介護① リハビリテーション介護の目的								
⑨	リハビリテーションと介護② リハビリテーション介護技術								
⑩	介護予防とリハビリテーション、地域リハビリテーション								
⑪	リハビリテーションの実際①（高齢者）						小テスト③		
⑫	リハビリテーションの実際②（身体障害）								
⑬	リハビリテーションの実際③（精神障害・発達障害・知的障害等）								
⑭	定期試験								
⑮	試験振り返り、まとめ								
評価内容・方法	試験	小テスト	レポート	発表	作品・課題	授業態度・参加度	その他	国家試験の対策	小テストにより知識の定着を図る
	70%	10%	なし	なし	10%	10%	なし		
使用教科書	配布資料 最新介護福祉士養成講座3「介護の基本Ⅰ」					参考図書	受験ワークブック（上） 授業内で適宜提示する。		
学生へのメッセージ	どのような状況でも対象者が「できること」「可能性」に気づき、活かす視点と創造する介護を学びます。					履修上の注意	小テストの実施は授業の進行により変更することもあります。課題は授業内で提示します。提出状況により評価します。		
<p><b>看護師として施設、企業、老人介護支援センター及び地域包括支援センターでの経験を生かし、①介護予防やリハビリテーションの意義や目的を説明できる。②対象者のできることを活かす視点、技術を介護実践に関連づけることができる。③ひとのあるべき姿を理解し対象者の尊厳を尊重した介護実践ができる授業を行う。</b></p>									

## 2019年度 介護福祉科 教科目概要（シラバス）

領域	授業科目	区分	時間数	開講時期				授業担当者
				1年		2年		
				前期	後期	前期	後期	
介護	コミュニケーション技術	演習	30		●			濱野厚子 【実務経験者】
《授業概要》 介護における意義と目的、介護技術とコミュニケーションの関係性について学習する。介護福祉士に求められるさまざまなコミュニケーション技法について理論と事例を組み合わせる。							《本教科で重要となるキーワード》 自己開示 信頼関係 受容 共感 傾聴	
《科目目標（総括目標・総括目標設定の理由）》 介護を必要とする者の理解や援助的関係、援助的コミュニケーションについて理解するとともに、利用者や利用者家族、あるいは多職種協働におけるコミュニケーション能力を身につける学習とする。								
《到達目標（具体的行動目標）》 ①介護におけるコミュニケーションの意義・目的・役割について理解し、自分の言葉で説明できる。 ②さまざまなコミュニケーション技法話を聞く技法、感情表現を察する技法、意欲を引き出す技法などについて理解する。								
授業回数	授業計画						授業外学習及び準備等	
①	授業のねらいと概要を説明。「介護におけるコミュニケーションの基本①」 コミュニケーションの意義と目的						教科書p2～5	
②	「介護におけるコミュニケーションの基本②」 介護福祉士のコミュニケーション						教科書p6～9	
③	「援助関係とコミュニケーション」 援助をするということとはどういうことなのかを学ぶ						教科書p10～18小テスト①	
④	「コミュニケーション態度に関する基本技術①」 傾聴とは						教科書p20～25	
⑤	「コミュニケーション態度に関する基本技術②」 受容と共感						教科書p26～32	
⑥	「言語。非言語・準言語コミュニケーション」						教科書p33～39小テスト②	
⑦	「目的別のコミュニケーション技術①」 利用者の意欲を高めるための動機づけ						教科書p40～48	
⑧	「目的別のコミュニケーション技術①」 意思決定を支援するための基本的な考え						教科書p49～56	
⑨	「介護現場におけるコミュニケーション①」 映画鑑賞						自分なりのコミュニケーションを確立する 小テスト③	
⑩	「介護現場におけるコミュニケーション②」 映画鑑賞						自分なりのコミュニケーションを確立する	
⑪	「集団におけるコミュニケーション技術①」 集団の意義						教科書p56～60	
⑫	「集団におけるコミュニケーション技術②」 集団運営の留意点						教科書p61～67	
⑬	「生活支援における介護技術とコミュニケーション」 映像鑑賞「バリテーション」 後期試験対策						教科書p61～67小テスト④	
⑭	後期試験対策 学習した内容の振り返り						試験範囲の学習	
⑮	後期試験解説 「利用者の感情表現を察する技法」 映像鑑賞「ユマニチュード」						コミュニケーション技術を振り返る	
評価内容・方法	試験	小テスト	レポート	発表	作品・課題	授業態度・参加度	その他	国家試験の対策 過去問題を授業中に行う
	60%	20%	なし	10%	なし	10%	なし	
使用教科書	最新 介護福祉士養成講座5 「コミュニケーション技術」中央法規出版				参考図書		完全図解「新しい介護」講談社・「介護リスクマネジメント（トラブル対策編）（事故防止編）」講談社・「介護福祉士国家試験過去問2019」中央法規・「介護福祉士国試ナビ」中央法規 他は授業時に紹介	
学生へのメッセージ	介護を必要とする利用者やその家族への理解を深めて、信頼関係を築きましょう。信頼の第一歩はコミュニケーションです。				履修上の注意		授業中はディスカッションなどにも積極的に参加する。教科書だけでなく、配布資料からも試験問題が出題されるのでまとめておく。	
<p><b>介護職員（介護福祉士）として介護業務に従事した際に経験したコミュニケーション技術を生かし、①介護におけるコミュニケーションの意義・目的・役割について理解し、自分の言葉で説明できる。②さまざまなコミュニケーション技法話を聞く技法、感情表現を察する技法、意欲を引き出す技法などについて理解できる授業を行う。</b></p>								

## 2019年度 介護福祉科 教科目概要（シラバス）

領域	授業科目	区分	時間数	開講時期				授業担当者
				1年		2年		
				前期	後期	前期	後期	
介護	コミュニケーション技術	演習	30			●	濱野厚子 【実務経験者】	
《授業概要》 コミュニケーション障害を理解し、障害のある利用者への対応の基本をふまえ、利用者の特性に応じたコミュニケーションの実際を学習していく。また介護におけるチームのコミュニケーションをすすめる具体的な方法について学習する。				《本教科で重要となるキーワード》 利用者と家族とのコミュニケーション コミュニケーション技法記録 報告、会議				
《科目目標（総括目標・総括目標設定の理由）》 介護を必要とする者の理解や援助的関係、援助的コミュニケーションについて理解するとともに、利用者や利用者家族、あるいは多職種協働におけるコミュニケーション能力を身につける。								
《到達目標（具体的行動目標）》 ①介護を必要とする利用者のそれぞれの状態について理解し、それに応じたコミュニケーション技法を習得する。 ②利用者・家族との関係づくりについて理解する。 ③介護におけるチームのコミュニケーションに必要な記録や報告を学び、技術を習得する。								
授業回数	授業計画						授業外学習及び準備等	
①	授業のねらいと概要を説明。「利用者の特性に応じたコミュニケーション①」実習Ⅰ-②から学んだコミュニケーションを振り返る（演習）						人間関係とコミュニケーションの復習	
②	「利用者の特性に応じたコミュニケーション②」コミュニケーション障害を理解する視点						教科書p136~139	
③	「利用者の特性に応じたコミュニケーション③」さまざまなコミュニケーション障害・脳の構造						教科書p140~147	
④	「コミュニケーション障害のある利用者への対応①」利用者への対応の基本を理解する						教科書p148~152	
⑤	「コミュニケーション障害のある利用者への対応②」非脳損傷型（視力障害・聴覚障害・構音障害など）の支援技術と検証						教科書p153~160 非脳損傷型の予習	
⑥	「コミュニケーション障害のある利用者への対応③」先天性脳損傷型（発達障害・知的障害・精神障害など）の支援技術と検証						教科書p153~160 先天性脳損傷型の予習・小テスト①	
⑦	「コミュニケーション障害のある利用者への対応④」後天性脳損傷型（高次脳機能障害・失語症など）の支援技術と検証						教科書p154~160 後天性脳損傷型の予習	
⑧	「コミュニケーション障害のある利用者への対応⑤」後天性脳損傷型（認知症・若年性認知症）の支援技術						教科書p154~160	
⑨	「利用者の特性に応じたコミュニケーション①」失語症・若年認知症・視覚障がいの方を事例としたロールプレイング（グループに分かれてロールプレイングの準備）						教科書p161~196 小テスト②	
⑩	「利用者の特性に応じたコミュニケーション②」失語症・若年認知症・視覚障がいの方を事例としたロールプレイング（グループに分かれて発表する）						教科書p161~196	
⑪	「介護におけるチームのコミュニケーション①」チームのコミュニケーション・介護における記録の意義と目的						教科書p200~208	
⑫	「介護におけるチームのコミュニケーション②」介護における記録の書き方と留意点・報告・連絡・相談の目的と留意点						教科書p209~247	
⑬	「介護におけるチームのコミュニケーション③」会議の種類と運用、前期試験対策						教科書p248~255 小テスト③	
⑭	前駆定期試験 学習した内容の振り返り						試験範囲の学習	
⑮	前期試験の解説と授業のまとめ						コミュニケーション技術を振り返る	
評価内容・方法	試験	小テスト	レポート	発表	作品・課題	授業態度・参加度	その他	国家試験の対策
	60%	20%	なし	10%	なし	10%	なし	
使用教科書	新 介護福祉士養成校講座5 「コミュニケーション技術」（第3版） 中央法規出版					参考図書		完全図解「新しい介護」講談社・「介護リスクマネジメント（トラブル対策編）（事故防止編）」講談社・「介護福祉士国家試験過去問2019」中央法規・「介護福祉士国試ナビ」中央法規 他は授業時に紹介
学生へのメッセージ	介護を必要とする利用者の障害への理解を深めて、信頼関係を築きましょう。信頼の第一歩はコミュニケーションです。					履修上の注意		授業中はディスカッションなどにも積極的に参加する。教科書だけではなく、配布資料からも試験問題が出題されるのでまとめておく。

## 2019年度 介護福祉科 教科目概要（シラバス）

領域	授業科目	区分	時間数	開講時期				授業担当者	
				1年		2年			
				前期	後期	前期	後期		
介護	生活支援技術Ⅱ（家庭生活）	演習	10		●			山本和広・久保田啓子・濱野厚子【実務経験者】	
《授業概要》				《本教科で重要となるキーワード》					
<ul style="list-style-type: none"> <li>戦後の高齢者福祉生活を家族形態などの変化と照らし合わせながら学習する。</li> <li>低所得高齢者の社会保障について種々のテーマを各班で調べ、発表する。</li> <li>高齢期を心豊かに過ごすために必要なことは何か考える。</li> </ul>				高齢者世帯 高齢化社会 高齢社会 超高齢社会 可処分所得 実収入 実支出 非消費支出 クーリングオフ制度 など					
《科目目標（総括目標・総括目標設定の理由）》									
尊厳の保持の観点から、どのような状態であってもその人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出したり、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識について習得する学習とする。									
《到達目標（具体的行動目標）》									
①高齢者のさまざまな生活を知り、介護福祉士として高齢者を理解する一助けとなる。 ②超高齢社会の到来を目の前にし、どのような心構えが必要かを考えられる。									
授業回数	授業計画						授業外学習及び準備等		
①	「家庭生活の理解①」家庭生活の変化：核家族化、夫婦の多様化、少子化						教科書p193～203 小テスト①		
②	「家庭生活の理解②」家庭生活の変化：高齢化、家事、介護労働の社会化						教科書p204～206 小テスト②		
③	生活時間・家庭経済 公的年金制度（外部講師）						公的年金制度		
④	消費者を保護する法律と制度 悪質商法・クーリングオフ制度						教科書p207～213 小テスト③		
⑤	後期定期試験 学習した内容の振り返り						試験範囲の学習		
⑥									
⑦									
⑧									
⑨									
⑩									
⑪									
⑫									
⑬									
⑭									
⑮									
評価内容・方法	試験	小テスト	レポート	発表	作品・課題	授業態度・参加度	その他	国家試験の対策	過去問題とドリルを行う
	60%	30%	なし	なし	なし	10%	なし		
使用教科書	最新 介護福祉士養成講座6 「生活支援技術Ⅰ」中央法規出版				参考図書		厚労省「高齢社会白書」「国民生活調査」・「介護福祉士国家試験過去問2019」中央法規・「介護福祉士国試ナビ」中央法規 他は授業時に紹介		
学生へのメッセージ	現在の高齢者問題を社会的な視点からみていくことも大切です。				履修上の注意		教科書だけではなく、配布資料からも試験問題が出題されるのでまとめておく。		
<b>介護職員(介護福祉士)としての勤務経験を生かし、家庭生活、住居、被服及び栄養についての知識を総合的に理解すると共に生活支援技術に役立てる授業を行う。</b>									

## 2019年度 介護福祉科 教科目概要（シラバス）

領域	授業科目	区分	時間数	開講時期				授業担当者	
				1年		2年			
				前期	後期	前期	後期		
介護	生活支援技術Ⅱ（家庭生活）	演習	16			●		山本和広・久保田啓子・濱野厚子【実務経験者】	
<p>《授業概要》 戦後の高齢者の生活を家族形態や経済状況などの変化と照らし合わせながら学習する。 高齢期を心豊かに過ごすために必要なことは何か考える。 福祉用具の機能を学び、どのような場面で活用しているかを学ぶ。 《科目目標（総括目標・総括目標設定の理由）》</p> <p>尊厳の保持の観点から、どのような状態であってもその人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出したり、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識について習得する。</p> <p>《到達目標（具体的行動目標）》 ①高齢者のさまざまな生活を知り、介護福祉士として高齢者を理解できる。 ②超高齢社会の到来を目の前にし、どのような心構えが必要かを考えられる。 ③福祉用具の機能を学び、生活の中で活用できる。</p>				<p>《本教科で重要となるキーワード》 超高齢社会 下流老人 福祉用具 家族形態 健康寿命</p>					
授業回数	授業計画						授業外学習及び準備等		
①	戦後の高齢者福祉政策 家族形態や高齢者政策の変遷						1年次の復習教科書 p194～200		
②	下流老人問題① 現実の課題 レポート（感想）						参考資料・図書		
③	戦後の高齢者福祉政策 家族形態や高齢者政策の変遷						参考資料・図書		
④	下流老人問題② 今後の課題 レポート（感想）						参考資料・図書		
⑤	介護ロボット・HALの体験学習 実際に介護ロボット・HALを使用して基本的動作を覚えよう						HALの予習		
⑥	介護ロボット・HALの体験学習 実際に介護ロボット・HALを使用して基本的動作を覚えよう レポート						HALの予習		
⑦	下流老人問題③と前期のまとめ 自分でできる自己防衛策 緊急時の対応						教科書p348～358		
⑧	前期試験 学習した内容の振り返り 授業の理解度の確認						生活支援技術（家庭）の振り返り		
⑨									
⑩									
⑪									
⑫									
⑬									
⑭									
⑮									
評価内容・方法	試験	小テスト	レポート	発表	作品・課題	授業態度・参加度	その他	国家試験の対策	国家試験に関わることは参考資料を参照とする
	60%	なし	30%	なし	なし	10%	なし		
使用教科書	新 介護福祉士養成講座6 「生活支援技術Ⅰ」（第4版） 中央法規出版					参考図書	藤田孝典「下流老人～一億総老人社会の衝撃」朝日新聞出版 NHK「老人漂流社会」主婦と生活者・厚労省 「高齢社会白書」「国民生活調査」他は授業時に紹介		
学生へのメッセージ	現在の高齢者問題を社会的な視点からみていくことも大切です。					履修上の注意	教科書だけではなく、配布資料からも試験問題が出題されるのでまとめておく。		

## 2019年度 介護福祉科 教科目概要（シラバス）

領域	授業科目	区分	時間数	開講時期				授業担当者	
				1年		2年			
				前期	後期	前期	後期		
介護	生活支援技術Ⅱ（住居）	演習	10		●			山本和広・久保田啓子・濱野厚子【実務経験者】	
《授業概要》 教科書P32～63 基本的には、教科書の読みと解説、授業終わりの小テストで1クール。							《本教科で重要となるキーワード》 手摺の設置、引戸の利用、段差の解消		
《科目目標（総括目標・総括目標設定の理由）》 生活支援をするにあたり、居住環境整備がどうしても必要なのか、意義と目的がわかるようにしていきたい。 具体的には、一般の住居をどのように改修していけば、使いやすくなるのかを形に（絵が描ける）できるようにしていく。									
《到達目標（具体的行動目標）》 一番身近なトイレを、どのように改修するかを答えられる（絵に描ける）ようにする。									
授業回数	授業計画							授業外学習及び準備等	
①	居住環境の整備 P32～38 住まいの役割と機能、生活空間							小テスト	
②	居住環境の整備 P38～45 加齢と生活空間							小テスト	
③	居住環境の整備 P46～53 快適な室内環境							小テスト	
④	居住環境の整備 P53～58 住まいの維持・管理、安全に暮らすための生活環境・小テスト							小テスト	
⑤	居住環境の整備 P59～63 日常生活のための対応策・小テスト～1年次テスト							小テスト・定期試験	
⑥									
⑦									
⑧									
⑨									
⑩									
⑪									
⑫									
⑬									
⑭									
⑮									
評価内容・方法	試験	小テスト	レポート	発表	作品・課題	授業態度・参加度	その他	国家試験の対策	小テスト
	100%	評価に加えず	勘定有	評価に加えず	評価に加えず	場合による	なし		
使用教科書	最新 介護福祉士養成講座6 「生活支援技術Ⅰ」中央法規出版					参考図書		なし	
学生へのメッセージ	試験用紙には、何かを書く。 書かずに提出しない。					履修上の注意		集中	

## 2019年度 介護福祉科 教科目概要（シラバス）

領域	授業科目	区分	時間数	開講時期				授業担当者	
				1年		2年			
				前期	後期	前期	後期		
介護	生活支援技術Ⅱ（住居）	演習	16			●	山本和広・久保田啓子・濱野厚子【実務経験者】		
《授業概要》 生活支援をするにあたり、居住環境整備がどうしても必要か、意義と目的がわかるようにする。相手を思いやることを念頭に、誰の為の法整備か、誰の為の改修かを考える。実際の事例を現場で直接見て、現状がどういつものであるかも考えたい。				《本教科で重要となるキーワード》 バリアフリーとユニバーサルデザイン					
《科目目標（総括目標・総括目標設定の理由）》  介護保険を利用の住宅改修を行う場合、何を改修すべきかを分かるようにする。									
《到達目標（具体的行動目標）》  玄関、廊下、トイレ、浴室などの、1、段差を解消する事。2、扉を開き戸から引戸に取替える事。3、手摺の取付。ユニバーサルデザインの身近な利用例や、介護保険の支給限度額がわかるようにする。									
授業回数	授業計画						授業外学習及び準備等		
①	P154～167 教科書の残り 集団生活						小テスト		
②	実習 学校から駅までの障害 感想文						杖と車いす		
③	P168～180 教科書の残り 居住環境の整備						小テスト		
④	実習 学校の中の危険 感想文						目隠し		
⑤	P181～192 多職種の役割と協働						小テスト		
⑥	実習 バリアフリー新法の実例 感想文								
⑦	実習 色について 感想文								
⑧	介護保険を利用した住宅改修で重点をおく所 居住環境全般の試験						定期試験		
⑨									
⑩									
⑪									
⑫									
⑬									
⑭									
⑮									
評価内容・方法	試験	小テスト	レポート	発表	作品・課題	授業態度・参加度	その他	国家試験の対策	小テスト
	100%	評価に加えず	勘定有	評価に加えず	評価に加えず	場合による	なし		
使用教科書	新 介護福祉士養成講座6 「生活支援技術Ⅰ」（第4版） 中央法規出版					参考図書	点字絵本		
学生へのメッセージ	とにかく見る事でそれが何かを理解する。					履修上の注意	天候により、授業の入替あり		

## 2019年度 介護福祉科 教科目概要（シラバス）

領域	授業科目	区分	時間数	開講時期				授業担当者
				1年		2年		
				前期	後期	前期	後期	
介護	生活支援技術Ⅱ（被服）	演習	10		●			山本和広・久保田啓子・濱野厚子【実務経験者】
《授業概要》								《本教科で重要となるキーワード》
洗濯の意義：洗濯をしないと吸水性や保温性などが損なわれ、かびや悪臭なども発生し、不衛生な状態になる為、衣類等の本来の機能を回復させる。 繊維タグ・洗濯マークを読み取り、洗濯の仕分けが判断できる。								洗濯の意義 繊維の種類・用途・特徴 洗濯マークの表示
《科目目標（総括目標・総括目標設定の理由）》								
洗濯ものの仕分けができるようになる為に：繊維の種類・用途・特徴を学ぶ。 適切な洗濯介助方法が判断できる為に：洗濯マーク表示にて適切な洗濯方法を学ぶ。 洗濯物方法の判断ができるために：洗いや干し方の手段が、適切に判断できる。								
《到達目標（具体的行動目標）》								
自分の衣類についている洗濯表示を調べて各グループで取りまとめる。 自分の衣類についてタグを調べて素材について各グループで取りまとめる。 適切な洗濯介助方法が判断できる。被服の実習に掘り下げる。								
授業回数	授業計画							授業外学習及び準備等
①	自分の洗濯方法を確認する。配布用紙に記入し提出する/被服の素材調べ日々行っている洗濯のやり方を分類・整理をする							自分の衣服・寝具カバー等のタグを確認し素材が何か調べ用紙に書く
②	繊維の種類・繊維名 天然繊維・化学繊維・植物繊維・動物繊維 グループワーク 各グループで取りまとめを行い発表する							配布資料を通読しておく
③	繊維の用途と特徴 冬用の衣服ウール・アクリル 夏用の衣服綿・麻							配布資料を通読しておく
④	洗濯マーク表示の意味を理解する。 2016年12月～のマークを覚え、洗濯ものの仕分け							配布資料を通読しておく
⑤	被服期末テスト							配布資料を読み返し、試験に望む
⑥								
⑦								
⑧								
⑨								
⑩								
⑪								
⑫								
⑬								
⑭								
⑮								
評価内容・方法	試験	小テスト	レポート	発表	作品・課題	授業態度・参加度	その他	国家試験の対策
	50%	20%	10%	なし	なし	20%	なし	
使用教科書	最新 介護福祉士養成講座6 「生活支援技術Ⅰ」中央法規出版 228P～246P					参考図書		
学生へのメッセージ	自分の衣服の洗濯マークを常に確認し洗濯をする。					履修上の注意	1、積極的の授業に参加すること 2、配布資料はファイル等にまとめて活用すること	

## 2019年度 介護福祉科 教科目概要（シラバス）

領域	授業科目	区分	時間数	開講時期				授業担当者
				1年		2年		
				前期	後期	前期	後期	
介護	生活支援技術Ⅱ（被服）	演習	12			●		山本和広・久保田啓子・濱野厚子【実務経験者】
《授業概要》 高齢者の身体機能を知り、被服における工夫により安全性・機能性を兼ね揃える。 家事支援における洗濯介助・裁縫介助の方法を掘り下げる。							《本教科で重要となるキーワード》 高齢者の身体機能低下 洗剤の種類・漂白剤の種類と特徴 手縫いの方法	
《科目目標（総括目標・総括目標設定の理由）》 「社会性を保った衣服に整える」衣服の破損に気づき、適切な対応で処置ができる。 衣類の管理ができるようになる為に、衣類のアセスメントができ、「しみ抜き」に必要な一連の作業を学ぶ。 衣類の補修ができるようになる為に、補修箇所に適した補修方法を学び、実践する。								
《到達目標（具体的行動目標）》 応急処置「しみ抜き」ができるようになる。衣服の素材を見極め、しみに適した洗剤を選び、実践する。 グループで実施：複数の素材でさまざまな「しみ」を落とす。実習を通して学ぶ。 裁縫「手縫い」で巾着袋を作成する。並み縫い・返し縫い・まつり縫い・ボタンつけを実践する。								
授業回数	授業計画						授業外学習及び準備等	
①	シミ抜きの実践 衣類素材アセスメント・しみの要因・洗剤の選び方						マグカップ 裁縫道具	
②	巾着材料・資料配布 「しみ抜き」グループ発表、						配布資料を通読し作業手順を確認する	
③	巾着袋を作成する 手縫い：並み縫い・返し縫い・まつり縫い・ボタンつけ・ひも通し						配布資料を通読し作業手順を確認する	
④	巾着袋を作成する 手縫い：並み縫い・返し縫い・まつり縫い・ボタンつけ・ひも通し						授業進行に遅れている方は ⑥までにやり終わる	
⑤	被服期末テスト						配布資料を読み返し、試験に望む	
⑥	作品を仕上げ提出する アイロンを使用 繊維別耐温度						配布資料を通読し作業手順を確認する	
⑦								
⑧								
⑨								
⑩								
⑪								
⑫								
⑬								
⑭								
⑮								
評価内容・方法	試験	小テスト	レポート	発表	作品・課題	授業態度・参加度	その他	国家試験の対策
	50%	なし	なし	なし	20%	30%	なし	
使用教科書	新 介護福祉士養成講座6 「生活支援技術Ⅰ」（第4版） 中央法規出版 258P～276P					参考図書		
学生へのメッセージ	授業で実習した「しみ抜き」「衣服の補修」 自宅で該当する物があったら実施し、経験値を高めて下さい。					履修上の注意		1、積極的の授業に参加すること 2、配布資料はファイル等にまとめて活用すること

## 2019年度 介護福祉科 教科目概要（シラバス）

領域	授業科目	区分	時間数	開講時期				授業担当者
				1年		2年		
				前期	後期	前期	後期	
介護	生活支援技術Ⅱ（栄養調理）	演習	16			●		山本和広・久保田啓子・濱野厚子【実務経験者】
<p>《授業概要》 「食の大切さ」を学び、自分の食生活を知ることから始まる。調理方法により治療食・生活習慣病への配慮された食事を作る。グループで実施することでお互いに学び合い、調理が楽しく思える授業を目指す。</p> <p>《科目目標（総括目標・総括目標設定の理由）》 調理介助ができるようになる為に、高齢者の特徴を習得し、調理手順：食材の下ごしらえ・包丁で切る・炒める・煮る・焼く・味付け・盛り付け等を実践する。基本的な食材の切り方を覚え、料理に適した食器を選ぶ。医療的観点から食品の保存方法、衛生管理、食中毒予防を学ぶ。</p> <p>《到達目標（具体的行動目標）》 1食分の高齢者の食事が作れるようになる。（米飯・主菜・副菜・汁もの・デザート等）病態に適した食材を選び、調理方法の工夫、食材の切り方、味付け方法を実践する。塩分の多い食材を知る。減塩食をおいしく食べる工夫を学び、実践する。</p>							<p>《本教科で重要となるキーワード》 栄養の基本。6つの基礎食品 栄養的特徴と働き 高齢者の食生活の基本。嗜好病態に適した調理方法</p>	
授業回数	授業計画						授業外学習及び準備等	
①	高齢者の特徴と食事。食の大切さ・健康作りのための食生活・バランス良く食べる						エプロン、三角巾、マグカップ	
②	加齢に伴う能力低下・不足しがちな栄養素・高齢者の脱水症状 ご飯・ミルフィーユカツ・しらすと小松菜の煮びたし・豆腐のみそ汁						事前配布した調理手順を通読しておく	
③	高齢者の嗜好。食べやすく工夫する。冷凍保存した食材 食中毒予防						「食事バランスシート」配布 1週間食べた物分類し記入する	
④	基本的食材の切り方・病態に適した調理方法 五目炊き込みご飯・肉じゃが・酢の物・しじみみそ汁						事前配布した調理手順を通読しておく	
⑤	食事を楽しむ。季節を感じる・見た目のおいしさ						③配布記入済み提出	
⑥	食品に含まれるうまみ物質 ちらしずし・鮭のマヨオイル焼き・茶碗むし・お吸い物・デザート						事前配布した調理手順を通読しておく	
⑦	栄養調理期末テスト						配布資料を読み返し、試験に望む	
⑧	常備食材で簡単に用意できる1食を作る そうめん 揚げなす ほうれん草ナムル						事前配布した調理手順を通読しておく	
⑨								
⑩								
⑪								
⑫								
⑬								
⑭								
⑮								
評価内容・方法	試験	小テスト	レポート	発表	作品・課題	授業態度・参加度	その他	国家試験の対策
	50%	なし	なし	なし	20%	30%	なし	
使用教科書	新 介護福祉士養成講座6 「生活支援技術Ⅰ」（第4版） 中央法規出版 217P～246P					参考図書	料理の本	
学生へのメッセージ	「調理を楽しみながら」 自宅でも作ってみましょう 家族・友達と作り一緒に食べましょう					履修上の注意	1、積極的の授業に参加すること 2、配布資料はファイル等にまとめて活用すること	

## 2019年度 介護福祉科 教科目概要（シラバス）

領域	授業科目	区分	時間数	開講時期				授業担当者	
				1年		2年			
				前期	後期	前期	後期		
介護	生活支援技術Ⅲ	演習	60		●			池上千恵美 【実務経験者】	
《授業概要》 生活支援技術を学ぶ意義を理解し、自立に向けた「身じたく」「移動」「食事」「入浴」「清潔保持」「排泄」の介護、「睡眠」「終末期」の介護について学ぶ。							《本教科で重要となるキーワード》 自立に向けた介護 生活支援技術		
《科目目標（総括目標・総括目標設定の理由）》 尊厳の保持の観点から、どのような状態であってもその人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出したり、見守ることも含めた適切な生活支援技術（介護技術）を用いて、安全に支援できる技術や知識について習得する学習とする。									
《到達目標（具体的行動目標）》 その人の自立・自律を尊重し、根拠に基づき安全に支援する生活支援技術（介護技術）について習得できる。									
授業回数	授業計画							授業外学習及び準備等	
①②	授業説明 休息・睡眠の介護 睡眠の意義と目的 睡眠の介護 敷きシーツ交換 ベッドに臥床している人がいる場合							教科書p216~224	
③④	自立に向けた身じたくの介護 身じたくの意義と目的 衣服着脱 ベッド上 前開き上衣・ズボン ゆかた着脱							教科書p59~64	
⑤⑥	自立に向けた入浴の介護 入浴の意義と目的 入浴の介助 家庭浴 機械浴 訪問入浴							教科書p104~123	
⑦⑧	自立に向けた清潔保持の介護 全身清拭 部分清拭							教科書p124~134	
⑨⑩	自立に向けた清潔保持の介護 部分浴の介助 手浴 足浴							教科書p134~141	
⑪⑫	自立に向けた身じたくの介護 口腔ケア 自立に向けた清潔保持の介護 洗髪の介助							教科書p28~46 p141~144	
⑬⑭	自立に向けた移動の介護 安楽な体位の介助 褥瘡予防							生活支援技術Ⅰ教科書p120~130	
⑮⑯	自立に向けた移動の介護 ベッドから車いすへの移乗介助 車いすからベッドへの移乗介助							生活支援技術Ⅰ教科書p131~152	
⑰⑱	自立に向けた移動の介護 車いす移動介助 段差超え 上り坂・下り坂 歩行介助 杖歩行 移乗・移動・歩行の福祉用具							生活支援技術Ⅰ教科書p131~152	
⑲⑳	自立に向けた食事の介護 食事の意義と目的 誤嚥、窒息予防 脱水予防 ベッド上での食事介助							教科書p74~95	
㉑㉒	自立に向けた排泄の介護 排泄の意義と目的 ポータルトイレでの排泄介助							教科書p158~177	
㉓㉔	実技試験 ベッド上での衣服着脱介助							教科書p59~64	
㉕㉖	自立に向けた排泄の介護 尿器・差し込み便器の介助 おむつ交換							教科書p178~193	
㉗㉘	前期試験							これまでの学習内容をまとめる	
㉙㉚	前期試験解説 これまでの学習を振り返る。							試験結果をアセスメントする	
評価内容・方法	試験	小テスト	レポート	発表	作品・課題	授業態度・参加度	その他（実技試験）	国家試験の対策	生活支援技術は全問題の20%を占める。基本的な知識と技術を理解していれば解ける。ここからだのしくみと関連している。なぜその支援技術が必要なのか根拠を理解する。
	40%	なし	10%	なし	なし	10%	40%		
使用教科書	最新 介護福祉士養成講座6・7 「生活支援技術Ⅰ・Ⅱ」中央法規出版					参考図書	授業の中で随時紹介する。		
学生へのメッセージ	この科目は「ここからだのしくみ」と関連しているので、心身機能について理解をしておく。					履修上の注意	身だしなみを整えて演習に望む。		
介護職員(介護福祉士)としての勤務経験を生かし、その人の自立・自律を尊重し、根拠に基づき安全に支援する生活支援技術(介護技術)について習得できる授業を行う。									

## 2019年度 介護福祉科 教科目概要（シラバス）

領域	授業科目	区分	時間数	開講時期				授業担当者	
				1年		2年			
				前期	後期	前期	後期		
介護	生活支援技術Ⅲ	演習	60			●	池上千恵美 【実務経験者】		
《授業概要》 生活支援技術を学ぶ意義を理解し、自立に向けた「身じたく」「移動」「食事」「入浴」「清潔保持」「排泄」の介護、「睡眠」「終末期」の介護について学ぶ。							《本教科で重要となるキーワード》 自立に向けた介護 生活支援技術		
《科目目標（総括目標・総括目標設定の理由）》 尊厳の保持の観点から、どのような状態であってもその人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出したり、見守ることも含めた適切な生活支援技術（介護技術）を用いて、安全に支援できる技術や知識について習得する学習とする。									
《到達目標（具体的行動目標）》 その人の自立・自律を尊重し、根拠に基づき安全に支援する生活支援技術（介護技術）について習得できる。									
授業回数	授業計画						授業外学習及び準備等		
①②	授業説明 睡眠の介護 睡眠の意義と目的 睡眠と薬 睡眠の介護 睡眠における多職種との協働と連携						教科書p216~224		
③④	終末期の介護 終末期の意義と介護の役割 終末期の介護における多職種との協働と連携						教科書p59~64		
⑤⑥	自立に向けた身じたくの介護 医行為ではない髭剃り、爪切り、軟膏塗布等介助 身じたくの介護における多職種との協働と連携						教科書p104~123		
⑦⑧	自立に向けた移動の介護 移動の介護における多職種との協働と連携 自立に向けた食事の介護 食事の介護における多職種との協働と連携						教科書p124~134		
⑨⑩	自立に向けた入浴・清潔保持の介護 入浴・清潔保持の介護における多職種との協働と連携 自立に向けた排泄の介護 排泄の介護における多職種との協働と連携						教科書p134~141		
⑪⑫	コミュニケーション技術 演習課題 山田太郎 鈴木花子						配布資料を読む。		
⑬⑭	自立に向けた移動の介護 演習課題 歩行介助 車いす移乗						配布資料を読む。		
⑮⑯	自立に向けた身だしなみの介護 衣服着脱の介護 演習課題 座位での着脱介助 演習課題 ベッド臥床時の着脱介助						配布資料を読む。		
⑰⑱	自立に向けた排泄の介護 演習課題 ベッド臥床時の排泄介助 演習課題 ポータブルトイレ排泄介助						配布資料を読む。		
⑲⑳	自立に向けた食事の介護 演習課題 食事介助 演習課題 食後の口腔ケア						配布資料を読む。		
㉑㉒	自立に向けた入浴・清潔保持の介護 演習課題 入浴の介助 演習課題 足浴の介助						配布資料を読む。		
㉓㉔	実技試験に備えて、これまでの演習課題の復習を行う。						これまでの演習課題を復習する。		
㉕㉖	実技試験						これまでの演習課題を復習する。		
㉗㉘	前期試験						これまでの学習内容をまとめる。		
㉙㉚	前期試験解説 これまでの学習を振り返る。						試験結果をアセスメントする		
評価内容・方法	試験	小テスト	レポート	発表	作品・課題	授業態度・参加度	その他（実技試験）	国家試験の対策	生活支援技術は全問題の20%を占める。基本的な知識と技術を理解していれば解ける。ここからだのしくみと関連している。なぜその支援技術が必要なのか根拠を理解する。
	40%	なし	10%	なし	なし	10%	40%		
使用教科書	新 介護福祉士養成講座7 「生活支援技術Ⅱ」（第3版） 中央法規出版					参考図書	授業の中で随時紹介する。		
学生へのメッセージ	この科目は「ここからだのしくみ」と関連しているので、心身機能について理解をしておく。					履修上の注意	身だしなみを整えて演習に望む。		

## 2019年度 介護福祉科 教科目概要（シラバス）

領域	授業科目	区分	時間数	開講時期				授業担当者	
				1年		2年			
				前期	後期	前期	後期		
介護	生活支援技術Ⅳ	演習	30				●	濱野厚子 【実務経験者】	
《授業概要》 介護を必要とする方のさまざまな障がいを理解し、自立に向けた支援方法を習得する。また、障がいを持つ人の特徴と生活上の困難を学び、障害の形態に合わせた生活を支えるための介護方法を学ぶ。				《本教科で重要となるキーワード》 それぞれの障害に応じた介護 自立支援 尊厳					
《科目目標（総括目標・総括目標設定の理由）》 尊厳の保持の観点から、どのような状態であってもその人の自立・自律を尊重し、適切な生活支援技術を用いて潜在能力を引き出し、安全に援助できる技術や知識を習得する。									
《到達目標（具体的行動目標）》 ①さまざまな障がいを理解し、適切な介護技術を選択できる。 ②さまざまな障がいをもつ方が、なじみのある環境で生活していけるための介護技術を習得する。 ③状態の変化に応じ、個別性を考慮した対応ができる介護技術を習得する。									
授業回数	授業計画						授業外学習及び準備等		
①	利用者の状態・状況に応じた生活支援技術 肢体不自由に応じた介護						教科書p2～28		
②	視覚障害に応じた介護						教科書p31～44		
③	聴覚・言語障害に応じた介護						教科書p46～56		
④	聴覚・言語障害に応じた介護・重複障害に応じた介護						教科書p57～72		
⑤	（内部障害①）心臓機能障害に応じた介護						教科書p75～89 小テスト①		
⑥	（内部障害②）呼吸機能障害に応じた介護						教科書p91～100		
⑦	（内部障害③）腎臓機能障害に応じた介護						教科書p108～119		
⑧	（内部障害④）膀胱・直腸小腸機能障害に応じた介護						教科書p121～132		
⑨	（内部障害⑤）小腸機能障害に応じた介護						教科書p134～143		
⑩	（内部障害⑥）HIVによる免疫機能障害に応じた介護						教科書p146～155 小テスト②		
⑪	（内部障害⑦）肝機能障害に応じた介護						教科書p158～167		
⑫	重度心身障害に応じた介護 ①						教科書p170～186		
⑬	重度心身障害に応じた介護 ② 定期試験対策						教科書p170～186		
⑭	定期試験						試験内容の学習		
⑮	後期の振り返り						生活支援Ⅳの振り替え		
評価内容・方法	試験	小テスト	レポート	発表	作品・課題	授業態度・参加度	その他	国家試験の対策	過去問題を授業中に行う合格ドリルを行う
	60%	20%	10%	なし	なし	10%	なし		
使用教科書	最新 介護福祉士養成講座8「生活支援技術Ⅲ」中央法規					参考図書			完全図解「新しい介護」講談社 「介護福祉士国試ナビ」 その他授業時間内に伝達
学生へのメッセージ	障がいをかかえて生活をするということを理解して、介護福祉士としての生活支援技術を学びましょう。					履修上の注意			授業中はディスカッションなどにも積極的に参加する。教科書だけではなく、配布資料からも試験問題が出題されるのでまとめておく。
<p><b>介護職員（介護福祉士）として介護業務経験を生かし、①さまざまな障がいを理解し、適切な介護技術を選択できる。②さまざまな障がいをもつ方が、なじみのある環境で生活していけるための介護技術を習得する。③状態の変化に応じ、個別性を考慮した対応ができる介護技術を習得する授業を行う。</b></p>									

## 2019年度 介護福祉科 教科目概要（シラバス）

領域	授業科目	区分	時間数	開講時期				授業担当者
				1年		2年		
				前期	後期	前期	後期	
介護	生活支援技術V	演習	30				●	濱野厚子 【実務経験者】
《授業概要》 介護を必要とする方のさまざまな障がいを理解し、自立に向けた支援方法を習得する。また、障がいを持つ人の特徴と生活上の困難を学び、障害の形態に合わせた生活を支えるための介護方法を学ぶ。				《本教科で重要となるキーワード》 尊厳 個別性 自立支援 エンパワーメント				
《科目目標（総括目標・総括目標設定の理由）》 尊厳の保持の観点から、どのような状態であってもその人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出し、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識について習得する学習とする。								
《到達目標（具体的行動目標）》 ①さまざまな障がいを理解し、適切な介護技術を選択できる。 ②さまざまな障がいをもつ方が、なじみのある環境で生活していけるための介護技術を習得する。 ③状態の変化に応じ、個別性を考慮した対応ができる介護技術を習得する。								
授業回数	授業計画						授業外学習及び準備等	
①	授業説明 生活支援技術を学ぶ意義 利用者の状態状況に応じた生活支援技術とは何か						1年生後期の振り返り	
②	知的障害に応じた介護① 知的障がいのある人の自己決定						教科書p146～159	
③	知的障害に応じた介護② 個別支援の重要性 動画鑑賞・感想文						教科書p146～159 小テスト①	
④	精神障害に応じた介護① 特性をふまえた介護技術の展開方法						教科書p161～175	
⑤	精神障害に応じた介護② 活用できる地域サービスや支援 動画鑑賞・感想文						教科書p161～175	
⑥	高次脳機能障がいに応じた介護① 特徴に合わせた介護技術の展開						教科書p176～193 小テスト②	
⑦	高次脳機能障がいに応じた介護① 適切な介護技術の提供 動画鑑賞・感想文						教科書p176～193	
⑧	発達障がいに応じた介護① 障がいの特性、発達段階、その人の特徴						教科書p194～213	
⑨	発達障がいに応じた介護② わかりやすい伝達の仕方や重要性 動画鑑賞・感想文						教科書p194～213	
⑩	重度心身障がいに応じた介護① 自立（自律）にむけた生活支援の方法						教科書p214～222 小テスト③	
⑪	重度心身障がいに応じた介護② 当たり前で暮らしていくことの基礎 動画鑑賞・感想文						教科書p214～222	
⑫	認知症の人への介護① 認知症介護の7原則						教科書p224～255	
⑬	認知症の人への介護② 若年性認知症の人への介護 後期試験対策						教科書p224～255 小テスト④	
⑭	後期試験対策 学習した内容の振り返り						試験範囲の学習	
⑮	後期定期試験の解答説明 後期に学習した内容のまとめ						生活支援技術Vを振り返る	
評価内容・方法	試験	小テスト	レポート	発表	作品・課題	授業態度・参加度	その他	国家試験の対策 過去問題を授業中に行う 合格ドリルを行う
	60%	20%	10%	なし	なし	10%	なし	
使用教科書	新 介護福祉養成講座8 「生活支援技術Ⅲ」（第3版） 中央法規出版				参考図書			完全図解「新しい介護」講談社 「介護福祉士国家試験過去問2019」中央法規 「介護福祉士国試ナビ」中央法規
学生へのメッセージ	障がいをかかえて生活することを理解して、介護福祉士としての生活支援技術を学びましょう。				履修上の注意			授業中はディスカッションなどにも積極的に参加する。教科書だけではなく、配布資料からも試験問題が出題されるのでまとめておく。
<p><b>介護職員（介護福祉士）としての勤務経験を生かし、①さまざまな障がいを理解し、適切な介護技術を選択できる。②さまざまな障がいをもつ方が、なじみのある環境で生活していけるための介護技術を習得する。③状態の変化に応じ、個別性を考慮した対応ができる介護技術を習得する授業を行う。</b></p>								

## 2019年度 介護福祉科 教科目概要（シラバス）

領域	授業科目	区分	時間数	開講時期				授業担当者
				1年		2年		
				前期	後期	前期	後期	
介護	介護過程Ⅰ	演習	30	●				池上千恵美 【実務経験者】
《授業概要》 利用者一人ひとりに応じた個別ケアを提供するために必要な専門知識を活用した客観的で科学的な思考過程を学ぶ。 介護過程の意義と目的を理解し、介護過程の展開方法を学ぶ。				《本教科で重要となるキーワード》 個別ケア アセスメント 情報収集 ICF 情報の解釈 関連づけ 統合化 介護計画の立案 介護計画の実施 評価				
《科目目標（総括目標・総括目標設定の理由）》 他の関連科目で学んだ介護福祉の知識や技術を統合して、介護過程を展開し、介護計画を立案し、適切な介護サービスの提供ができる能力を養う学習とする。								
《到達目標（具体的行動目標）》 1. 介護過程の意義と目的を理解できる。 2. 介護過程の展開を理解できる。 3. 事例を用いた介護過程展開方法の基礎が理解できる。								
授業回数	授業計画						授業外学習及び準備等	
①	授業説明 介護過程とは何か。						教科書p2~3	
②	介護過程を理解する準備 他者とかかわることを考える。						本日のグループワークを振り返る。	
③	介護過程を理解する準備 相手の立場になって考える。共感的理解						共感的理解について振り返る。	
④	介護過程の理解 介護過程の意義 目的						教科書p4~6	
⑤	介護過程の理解 介護過程の全体像 介護過程とICF 生活支援における介護過程の必要性						教科書p6~12	
⑥	介護過程の展開 アセスメント 情報収集とICF						教科書p20~35	
⑦	介護過程の展開 アセスメント 情報収集						教科書p20~35	
⑧	介護過程の展開 アセスメント 情報収集						教科書p20~35	
⑨	介護過程の展開 アセスメント 情報の解釈 関連づけ 統合化						教科書p36~58	
⑩	介護過程の展開 アセスメント 情報の解釈 関連づけ 統合化						教科書p36~58	
⑪	介護過程の展開 アセスメント 情報の解釈 関連づけ 統合化						教科書p36~58	
⑫	介護過程の展開 アセスメント 情報の解釈 関連づけ 統合化						教科書p36~58	
⑬	介護過程の展開 アセスメント 課題の明確化 課題の優先順位						教科書p36~58	
⑭	前期試験						これまでの学習内容をまとめる。	
⑮	前期試験解説 これまでの学習を振り返る。						試験結果をアセスメントする。	
評価内容・方法	試験	小テスト	レポート	発表	作品・課題	授業態度・参加度	その他	国家試験の対策 介護過程の意義・目的、介護過程展開に必要な基礎的知識と支援方法を学習する。
	40%	なし	40%	なし	10%	10%	なし	
使用教科書	最新 介護福祉士養成講座9 「介護過程」中央法規出版					参考図書	授業の中で随時紹介する。	
学生へのメッセージ	介護過程は課題解決思考を用いるので、自分の考えをまとめ記録する。					履修上の注意	課題の提出期限は守る。	
介護職員(介護福祉士)としての勤務経験を生かし、1. 介護過程の意義と目的を理解できる。2. 介護過程の展開を理解できる。3. 事例を用いた介護過程展開方法の基礎が理解できる授業を行う。								

## 2019年度 介護福祉科 教科目概要（シラバス）

領域	授業科目	区分	時間数	開講時期				授業担当者
				1年		2年		
				前期	後期	前期	後期	
介護	介護過程Ⅰ	演習	60		●			池上千恵美 【実務経験者】
《授業概要》 利用者一人ひとりに応じた個別ケアを提供するために必要な専門知識を活用した客観的で科学的な思考過程を学ぶ。既習した知識・技術を統合して、事例を通して根拠に基づいた課題を明確にし、適切な個別援助計画を立案する。							《本教科で重要となるキーワード》 個別ケア アセスメント 情報収集 ICF 情報の解釈 関連づけ 統合化 介護計画の立案 介護計画の実施 評価	
《科目目標（総括目標・総括目標設定の理由）》 他の関連科目で学んだ介護福祉の知識や技術を統合して、介護過程を展開し、介護計画を立案し、適切な介護サービスの提供ができる能力を養う学習とする。								
《到達目標（具体的行動目標）》 1. 既習した知識・技術を統合し、多面的にアセスメントできる。 2. 利用者にとって適切な個別援助計画を立案できる。								
授業回数	授業計画						授業外学習及び準備等	
①②	授業説明 介護過程とは何か。前期学習の振り返りをする。介護を必要とする人の理解 高齢者						教科書p2~12	
③④	介護を必要とする人の理解 認知症のある人 身体障害のある人						認知症のある人、身体障害のある人に関する本などで予習する。	
⑤⑥	介護を必要とする人の理解 知的障害のある人 重複障害のある人						知的障害、重複障害のある人に関する本などで予習する。	
⑦⑧	介護過程の意義 目的 生活支援における介護過程の必要性 介護過程の全体像 介護過程とICF 介護過程の展開 事例のアセスメント 情報収集						教科書p2~12	
⑨⑩	介護過程の展開 事例のアセスメント 情報の解釈 関連づけ 統合化						教科書p20~58	
⑪⑫	介護過程の展開 事例のアセスメント 情報の解釈 関連づけ 統合化						教科書p20~58	
⑬⑭	介護過程の展開 事例のアセスメント 課題の明確化 課題の優先順位 個別援助計画の意義目的 事例の計画立案 目標						教科書p20~58 教科書p59~68	
⑮⑯	介護過程の展開 事例の支援内容方法						教科書p59~68	
⑰⑱	介護過程の展開 事例の支援内容方法						教科書p59~68	
⑲⑳	介護過程の展開 事例のアセスメント 情報収集						教科書p20~58	
㉑㉒	介護過程の展開 アセスメント 情報の解釈 関連づけ 統合化						教科書p20~58	
㉓㉔	介護過程の展開 アセスメント 情報の解釈 関連づけ 統合化 介護過程の展開 アセスメント 課題の明確化 課題の優先順位						教科書p20~58	
㉕㉖	介護過程の展開 事例の計画立案 支援内容方法						教科書p59~68	
㉗㉘	介護過程の展開 事例の計画立案 支援内容方法 後期試験						教科書p59~68 これまでの学習内容をまとめる。	
㉙㉚	後期試験解説 これまでの学習を振り返る。						試験結果をアセスメントする。	
評価内容・方法	試験	小テスト	レポート	発表	作品・課題	授業態度・参加度	その他	国家試験の対策 介護過程の意義・目的、介護過程展開に必要な基礎的知識と支援方法を学習する。
	40%	なし	40%	なし	10%	10%	なし	
使用教科書	最新 介護福祉士養成講座9 「介護過程」中央法規出版					参考図書	授業の中で随時紹介する。	
学生へのメッセージ	介護過程は課題解決思考を用いるので、自分の考えをまとめ記録する。					履修上の注意	課題の提出期限は守る。	

## 2019年度 介護福祉科 教科目概要（シラバス）

領域	授業科目	区分	時間数	開講時期				授業担当者
				1年		2年		
				前期	後期	前期	後期	
介護	介護過程Ⅱ	演習	60			●		池上千恵美 【実務経験者】
《授業概要》 利用者一人ひとりに応じた個別ケアを提供するために必要な専門知識を活用した客観的で科学的な思考過程を学ぶ。既習した知識・技術を統合して、事例を通して根拠に基づいた課題を明確にし、適切な個別援助計画の立案、実施、評価について学ぶ。							《本教科で重要となるキーワード》 個別ケア アセスメント 情報収集 ICF 情報の解釈 関連づけ 統合化 介護計画の立案 介護計画の実施 評価	
《科目目標（総括目標・総括目標設定の理由）》 他の関連科目で学んだ介護福祉の知識や技術を統合して、介護過程を展開し、介護計画を立案し、適切な介護サービスの提供ができる能力を養う学習とする。								
《到達目標（具体的行動目標）》 1. 既習した知識・技術を統合し、多面的にアセスメントできる。 2. 利用者にとって適切な個別援助計画を立案できる。 3. 計画を実施し、実施に基づく評価ができる。								
授業回数	授業計画						授業外学習及び準備等	
①②	授業説明 介護過程とは何か。生活支援の考え方と介護過程の必要性 介護過程と問題解決思考 認知症の人の事例を考える。						教科書p2～15	
③④	介護過程と問題解決思考 認知症の人の事例を考える。 介護過程とチームアプローチ 介護過程とケアマネジメントの関係性						教科書p2～15 教科書p98～120	
⑤⑥	介護過程の展開 アセスメント 情報収集 ICFの視点 介護過程の展開 アセスメント 情報収集 ICFの視点						教科書p20～32	
⑦⑧	介護過程の展開 アセスメント 情報の解釈 関連づけ 統合化 課題の明確化 課題優先順位						教科書p20～32	
⑨⑩	介護過程の展開 アセスメント 事例Jさん フェイスシート作成 情報収集～課題明確化						教科書p154～163	
⑪⑫	介護過程の展開 アセスメント 事例Jさん フェイスシート作成 情報収集～課題明確化 計画立案						教科書p154～163	
⑬⑭	介護過程の展開 計画立案 事例Jさん 目標設定 支援内容・方法決定						教科書p154～163	
⑮⑯	介護過程の展開 実施・評価 事例Jさん 実施の留意点 評価の留意点						教科書p66～87	
⑰⑱	介護過程の実践的展開 事例を用いた個別援助計画 事例Aさん						学習した知識と技術を統合して 個別援助計画を立案する。	
⑲⑳	介護過程の実践的展開 事例を用いた個別援助計画						学習した知識と技術を統合して 個別援助計画を立案する。	
㉑㉒	介護過程の実践的展開 事例を用いた個別援助計画						学習した知識と技術を統合して 個別援助計画を立案する。	
㉓㉔	介護過程の実践的展開 事例を用いた個別援助計画						学習した知識と技術を統合して 個別援助計画を立案する。	
㉕㉖	介護過程の実践的展開 事例を用いた個別援助計画						学習した知識と技術を統合して 個別援助計画を立案する。	
㉗㉘	前期試験介護過程の実践的展開 事例を用いた個別援助計画						これまでの学習内容をまとめる。 個別援助計画を立案する。	
㉙㉚	前期試験解説介護過程の実践的展開 事例を用いた個別援助計画						試験結果をアセスメントする。	
評価内容・方法	試験	小テスト	レポート	発表	作品・課題	授業態度・参加度	その他	国家試験の対策 介護過程の意義・目的、介護過程展開に必要な基礎的知識と支援方法を学習する。
	40%	なし	40%	なし	10%	10%	なし	
使用教科書	新 介護福祉士養成講座9 「介護過程」（第3版） 中央法規出版						参考図書	授業の中で随時紹介する。
学生へのメッセージ	介護過程は問題解決思考を用いるので、自分の考えをまとめ記録する。						履修上の注意	課題の提出期限は守る。
介護職員(介護福祉士)としての勤務経験を生かし、1. 既習した知識・技術を統合し、多面的にアセスメントできる。2. 利用者にとって適切な個別援助計画を立案できる。3. 計画を実施し、実施に基づく評価ができる授業を行う。								

## 2019年度 介護福祉科 教科目概要（シラバス）

領域	授業科目	区分	時間数	開講時期				授業担当者
				1年		2年		
				前期	後期	前期	後期	
介護	介護総合演習Ⅰ	演習	30	●				池上千恵美 【実務経験者】
《授業概要》 介護総合演習・介護実習の意義と目的を理解したうえで、介護実習Ⅰ-①の事前学習を行い、実習終了後の振り返りを行う。							《本教科で重要となるキーワード》 介護実習 知識と技術の統合化 介護観	
《科目目標（総括目標・総括目標設定の理由）》 介護実践に必要な知識や技術の統合を行うと共に、介護観を形成し、専門職としての態度を養う学習とする。								
《到達目標（具体的行動目標）》 介護実習Ⅰ-①の事前学習として、実習関連書類と記入方法を理解し、適切に書類を完成できる。 介護実習Ⅰ-①の目標設定ができる。 介護実習Ⅰ-①終了後の振り返りができる。								
授業回数	授業計画							授業外学習及び準備等
①	授業説明 介護総合演習の位置づけ 介護総合演習・介護実習の学習の進め方							教科書p2~4
②	介護総合演習の目的 介護実習の意義と目的							教科書p5~22
③	介護実習施設の理解 実習施設の特徴 利用者の理解 実習先での学び							教科書p109~120
④	介護実習施設の理解 実習施設の特徴 利用者の理解 実習先での学び							教科書p121~131 p180~191
⑤	介護実習Ⅰ-①の事前準備 介護実習Ⅰ-①の目的と目標 学生自身の介護実習Ⅰ-①の目標							教科書p23~27
⑥	介護実習Ⅰ-①の事前準備 学生個人票作成 実習計画作成 実習施設概要作成							教科書p40~52
⑦	介護実習Ⅰ-①の事前準備 介護実習施設事前訪問の目的・方法							教科書p40~52
⑧	介護実習Ⅰ-①の事前準備 介護実習に必要な書類の準備 実習に関する留意点							教科書p53~59
⑨	介護実習記録作成 日々の目標設定 介護実習記録方法							教科書p47~52
⑩	介護実習記録作成 日々の目標設定 介護実習記録方法							教科書p47~52
⑪	介護実習記録作成 日々の目標設定 介護実習記録方法							教科書p47~52
⑫	介護実習記録作成 日々の目標設定 介護実習記録方法							教科書p47~52
⑬	介護実習施設の理解 実習施設の特徴 利用者の理解 実習先での学び							教科書p86~109
⑭	前期試験							これまでの学習内容をまとめる。
⑮	前期試験解説 介護実習Ⅰ-①の振り返り							教科書p60~73
評価内容・方法	試験	小テスト	レポート	発表	作品・課題	授業態度・参加度	その他（実習書類）	国家試験の対策
	30%	なし	なし	なし	なし	20%	50%	
使用教科書	最新 介護福祉士養成講座10 「介護総合演習・介護実習」中央法規出版					参考図書	授業の中で随時紹介する。	
学生へのメッセージ	介護実習と連動している科目であるため出席する。					履修上の注意	実習先への提出種類の提出期限を守る。	
介護職員(介護福祉士)としての勤務経験を生かし、介護実習Ⅰ-①の事前学習として、実習関連書類と記入方法を理解し、適切に書類を完成できる。介護実習Ⅰ-①の目標設定ができる。介護実習Ⅰ-①終了後の振り返りができる授業を行う。								

## 2019年度 介護福祉科 教科目概要（シラバス）

領域	授業科目	区分	時間数	開講時期				授業担当者
				1年		2年		
				前期	後期	前期	後期	
介護	介護総合演習Ⅰ	演習	30		●			池上千恵美 【実務経験者】
《授業概要》 介護総合演習・介護実習の意義と目的を理解したうえで、介護実習Ⅰ-②の事前学習を行い、実習終了後の振り返りを行う。							《本教科で重要となるキーワード》 介護実習 知識と技術の統合化 介護観	
《科目目標（総括目標・総括目標設定の理由）》 介護実践に必要な知識や技術の統合を行うと共に、介護観を形成し、専門職としての態度を養う学習とする。								
《到達目標（具体的行動目標）》 介護実習Ⅰ-②の事前学習として、実習関連書類と記入方法を理解し、適切に書類を完成できる。 介護実習Ⅰ-②の目標設定ができる。 介護実習Ⅰ-②終了後の振り返りができる。								
授業回数	授業計画						授業外学習及び準備等	
①	授業説明 介護実習Ⅰ-①の振り返り						教科書p60~71	
②	介護実習Ⅰ-①の報告書作成 介護実習面談						教科書p60~71	
③	介護実習Ⅰ-①の報告書作成 介護実習面談						教科書p60~71	
④	介護実習Ⅰ-①報告会						教科書p60~71	
⑤	介護実習Ⅰ-①報告会						教科書p60~71	
⑥	介護実習Ⅰ-②の事前準備 介護実習Ⅰ-①の目的と目標 学生自身の介護実習Ⅰ-①の目標						教科書p217~222	
⑦	介護実習Ⅰ-②の事前準備 学生個人票作成 実習計画作成 実習施設概要作成						教科書p40~52	
⑧	介護実習Ⅰ-②の事前準備 介護実習施設事前訪問の目的・方法						教科書p40~52	
⑨	介護実習記録作成 日々の目標設定 介護実習記録方法						教科書p47~52	
⑩	介護実習記録作成 日々の目標設定 介護実習記録方法						教科書p47~52	
⑪	介護実習記録作成 日々の目標設定 介護実習記録方法						教科書p47~52	
⑫	介護実習記録作成 日々の目標設定 介護実習記録方法						教科書p47~52	
⑬	介護実習Ⅰ-②の事前準備 介護実習に必要な書類の準備 実習に関する留意点						教科書p53~59	
⑭	後期試験						これまでの学習内容をまとめる。	
⑮	後期試験解説							
評価内容・方法	試験	小テスト	レポート	発表	作品・課題	授業態度・参加度	その他（実習書類）	国家試験の対策
	30%	なし	なし	なし	なし	20%	50%	
使用教科書	最新・介護福祉士養成講座10 「介護総合演習・介護実習」中央法規出版					参考図書	授業の中で随時紹介する。	
学生へのメッセージ	介護実習と連動している科目であるため出席する。					履修上の注意	実習先への提出種類の提出期限を守る。	

## 2019年度 介護福祉科 教科目概要（シラバス）

領域	授業科目	区分	時間数	開講時期				授業担当者
				1年		2年		
				前期	後期	前期	後期	
介護	介護総合演習Ⅱ	演習	30			●		池上千恵美 【実務経験者】
《授業概要》 介護総合演習・介護実習の意義と目的を理解したうえで、介護実習Ⅰ-③、介護実習Ⅱの事前学習を行い、実習終了後の振り返りを行う。							《本教科で重要となるキーワード》 介護実習 知識と技術の統合化 介護観	
《科目目標（総括目標・総括目標設定の理由）》 介護実践に必要な知識や技術の統合を行うと共に、介護観を形成し、専門職としての態度を養う学習とする。								
《到達目標（具体的行動目標）》 介護実習Ⅰ-③ 介護実習Ⅱの事前学習として、実習関連書類と記入方法を理解し、適切に書類を完成できる。 介護実習Ⅰ-③、介護実習Ⅱの目標設定ができる。 介護実習Ⅰ-③、介護実習Ⅱ終了後の振り返りができる。								
授業回数	授業計画						授業外学習及び準備等	
①	授業説明 介護実習Ⅰ-②の振り返り						教科書p66~71	
②	介護実習Ⅰ-②報告書作成 介護実習面談						教科書p66~71	
③	介護実習Ⅰ-②報告会						教科書p66~71	
④	介護実習Ⅰ-②報告会						教科書p66~71	
⑤	介護実習Ⅰ-③の事前準備 介護実習Ⅰ-③の目的と目標 学生自身の介護実習Ⅰ-③の目標						教科書p185~187	
⑥	介護実習Ⅰ-③の事前準備 学生個人票作成 実習計画作成 実習事業所概要作成						教科書p185~187	
⑦	介護実習Ⅱの事前準備 介護実習Ⅱの目的と目標 学生自身の介護実習Ⅱの目標						教科書p200~210 p27~30	
⑧	介護実習Ⅱの事前準備 学生個人票作成 実習計画作成 実習施設概要作成						教科書p200~210 p27~30	
⑨	介護実習Ⅰ-③ 介護実習Ⅱの事前準備 介護実習に必要な書類の準備 実習に関する留意点						教科書p46~64	
⑩	介護実習Ⅰ-③ 介護実習Ⅱの事前準備 事前訪問の目的・方法						教科書p46~64	
⑪	介護実習記録作成 日々の目標設定 介護実習記録方法						教科書p62~64	
⑫	介護実習記録作成 日々の目標設定 介護実習記録方法						教科書p62~64	
⑬	介護実習記録作成 日々の目標設定 介護実習記録方法						教科書p62~64	
⑭	前期試験						これまでの学習内容をまとめる。	
⑮	後期試験解説						試験結果をアセスメントする。	
評価内容・方法	試験	小テスト	レポート	発表	作品・課題	授業態度・参加度	その他（実習書類）	国家試験の対策
	30%	なし	なし	なし	なし	20%	50%	
使用教科書	新 介護福祉士養成講座10 「介護総合演習・介護実習」（第3版） 中央法規出版					参考図書	授業の中で随時紹介する。	
学生へのメッセージ	介護実習と連動している科目であるため出席する。					履修上の注意	実習先への提出種類の提出期限を守る。	
介護職員(介護福祉士)としての勤務経験を生かし、介護実習Ⅰ-③介護実習Ⅱの事前学習として、実習関連書類と記入方法を理解し、適切に書類を完成できる。介護実習Ⅰ-③介護実習Ⅱの目標設定ができる。介護実習Ⅰ-③介護実習Ⅱ終了後の振り返りができ授業を行う。								

## 2019年度 介護福祉科 教科目概要（シラバス）

領域	授業科目	区分	時間数	開講時期				授業担当者
				1年		2年		
				前期	後期	前期	後期	
介護	介護総合演習Ⅱ	演習	30				●	池上千恵美 【実務経験者】
《授業概要》 介護実習Ⅱで実施した個別援助計画を介護事例研究としてまとめ、発表する。							《本教科で重要となるキーワード》 介護実習 知識と技術の統合化 介護観 介護実習	
《科目目標（総括目標・総括目標設定の理由）》 介護実践に必要な知識や技術の統合を行うと共に、介護観を形成し、専門職としての態度を養う学習とする。								
《到達目標（具体的行動目標）》 介護事例研究をまとめ発表できる。これまでの介護実習、学内での学びから介護観を形成できる。								
授業回数	授業計画							授業外学習及び準備等
①	授業説明 介護実習Ⅱの振り返り 卒業研究としての介護事例研究の説明							介護事例研究に必要な文献を探す。研究論文書式に従いまとめる。
②	介護事例研究 介護実習Ⅱの個別援助計画を事例研究としてまとめる。							介護事例研究に必要な文献を探す。研究論文書式に従いまとめる。
③	介護事例研究 介護実習Ⅱの個別援助計画を事例研究としてまとめる。							介護事例研究に必要な文献を探す。研究論文書式に従いまとめる。
④	介護事例研究 介護実習Ⅱの個別援助計画を事例研究としてまとめる。							介護事例研究に必要な文献を探す。研究論文書式に従いまとめる。
⑤	介護事例研究 介護実習Ⅱの個別援助計画を事例研究としてまとめる。							介護事例研究に必要な文献を探す。研究論文書式に従いまとめる。
⑥	介護事例研究 介護実習Ⅱの個別援助計画を事例研究としてまとめる。							介護事例研究に必要な文献を探す。研究論文書式に従いまとめる。
⑦	介護事例研究 介護実習Ⅱの個別援助計画を事例研究としてまとめる。							介護事例研究に必要な文献を探す。研究論文書式に従いまとめる。
⑧	介護事例研究 介護実習Ⅱの個別援助計画を事例研究としてまとめる。							介護事例研究に必要な文献を探す。研究論文書式に従いまとめる。
⑨	介護事例研究 介護実習Ⅱの個別援助計画を事例研究としてまとめる。							介護事例研究に必要な文献を探す。研究論文書式に従いまとめる。
⑩	介護事例研究 介護実習Ⅱの個別援助計画を事例研究としてまとめる。							介護事例研究に必要な文献を探す。研究論文書式に従いまとめる。
⑪	介護事例研究 介護実習Ⅱの個別援助計画を事例研究としてまとめる。							介護事例研究に必要な文献を探す。研究論文書式に従いまとめる。
⑫	介護事例研究 介護実習Ⅱの個別援助計画を事例研究としてまとめる。							介護事例研究に必要な文献を探す。研究論文書式に従いまとめる。
⑬	介護事例研究 介護実習Ⅱの個別援助計画を事例研究としてまとめる。							介護事例研究に必要な文献を探す。研究論文書式に従いまとめる。
⑭	介護事例研究 介護実習Ⅱの個別援助計画を事例研究としてまとめる。							介護事例研究に必要な文献を探す。研究論文書式に従いまとめる。
⑮	卒業研究発表会							卒業研究発表の練習をする。
評価内容・方法	試験	小テスト	レポート	発表	作品・課題	授業態度・参加度	その他（卒業研究）	国家試験の対策
	なし	なし	なし	20%	なし	20%	60%	
使用教科書	新 介護福祉士養成講座10 「介護総合演習・介護実習」（第3版） 中央法規出版					参考図書	授業の中で随時紹介する。	
学生へのメッセージ	介護実習Ⅱの個別援助計画を振り返り自分の考えをまとめる。					履修上の注意	研究論文の提出期限を守る。	

## 2019年度 介護福祉科 教科目概要（シラバス）

領域	授業科目	区分	時間数	開講時期				授業担当者
				1年		2年		
				前期	後期	前期	後期	
介護	介護実習Ⅰ-①	実習	80	●				池上千恵美【実務経験者】・ 小針臣子【実務経験者】・ 濱野厚子【実務経験者】
《授業概要》 介護実習Ⅰ-①では、利用者の暮らしの場を知り、介護サービスを利用して いる様々な人と出会う実習とする。							《本教科で重要となるキーワード》 実習目標 施設実習 訪問介護実習 実習記録 利用者 家族 多職種協働	
《科目目標（総括目標・総括目標設定の理由）》 利用者の生活の場である多様な介護現場において、利用者の理解を中心とし、これに併せて利用者・家族との関わりを通じたコミュニケーションの実践、多職種協働の実践、介護技術の確認等を行う。								
《到達目標（具体的行動目標）》 1. 介護サービスを利用している人たちがどのようなところで、どのような暮らしをしているのか理解する。 2. どのような専門職が利用者を支えているのかを理解する。								
授業回数	授業計画						授業外学習及び準備等	
	<p>介護実習Ⅰ-①は次の目標をもち、実習形式で1年生前期に10日間行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 利用者の暮らしの場が理解できる。</li> <li>2. 介護サービスの利用者に出会うことができる。 <ol style="list-style-type: none"> <li>①利用者のイメージ転換を図る。 ②利用者の個別性を理解する。</li> </ol> </li> <li>3. 生活支援の場を知ることができる。 <ol style="list-style-type: none"> <li>①日常生活における基本的な介護技術を学ぶ。 ②多職種協働を理解する。</li> </ol> </li> <li>4. コミュニケーションの大切さを知ることができる。</li> </ol>							
評価内容・方法	介護実習評価と指導における総合評価				国家試験の対策			
使用教科書	最新 介護福祉士養成講座10 「介護総合演習・介護実習」中央法規出版	参考図書	授業の中で随時紹介する。					
学生へのメッセージ	健康管理に努め実習目標達成に向けて取り組む。	履修上の注意	10日間（80時間）の実習を行う。					
<p>実務経験者としての経験を生かし、介護実習Ⅰ-①では、利用者の暮らしの場を知り、介護サービスを利用している様々な人と出会う実習とする。介護実習Ⅰ-②では、基本的な介護技術を実践しながら、介護実習Ⅱの介護過程につなげる実習とする。介護実習Ⅰ-③では、利用者が地域で生活していくための支援体制を理解する実習とする。</p>								

## 2019年度 介護福祉科 教科目概要（シラバス）

領域	授業科目	区分	時間数	開講時期				授業担当者
				1年		2年		
				前期	後期	前期	後期	
介護	介護実習Ⅰ-②	実習	152		●			池上千恵美【実務経験者】・ 小針臣子【実務経験者】・ 濱野厚子【実務経験者】
《授業概要》 介護実習Ⅰ-②では、基本的な介護技術を実践しながら、介護実習Ⅱの介護過程につなげる実習とする。							《本教科で重要となるキーワード》 実習目標 施設実習 訪問介護実習 実習記録 利用者 家族 多職種協働	
《科目目標（総括目標・総括目標設定の理由）》 利用者の生活の場である多様な介護現場において、利用者の理解を中心とし、これに併せて利用者・家族との関わりを通じたコミュニケーションの実践、多職種協働の実践、介護技術の確認等を行う。								
《到達目標（具体的行動目標）》 1. それぞれの暮らしの場でこの利用者の心身の状況に応じた基本的な介護技術の実践をする。 2. 個別援助計画を立案する。								
授業回数	授業計画						授業外学習及び準備等	
	介護実習Ⅰ-②は次の目標をもち、実習形式で1年生後期に19日間行う。 1. 利用者の状態像を観察できる。 2. 利用者の生活の不自由さを理解することができる。 3. 安全性と快適性に配慮した介護技術を実践できる。 4. 対人関係を意識したコミュニケーションをとることができる。 5. 個別援助計画を立案できる。							
評価内容・方法	介護実習評価と指導における総合評価				国家試験の対策			
使用教科書	最新 介護福祉士養成講座10 「介護総合演習・介護実習」中央法規出版		参考図書	授業の中で随時紹介する。				
学生へのメッセージ	健康管理に努め実習目標達成に向けて取り組む。		履修上の注意	19日間（152時間）の実習を行う。				

## 2019年度 介護福祉科 教科目概要（シラバス）

領域	授業科目	区分	時間数	開講時期				授業担当者
				1年		2年		
				前期	後期	前期	後期	
介護	介護実習Ⅰ-③	実習	32			●		池上千恵美【実務経験者】・ 小針臣子【実務経験者】・ 濱野厚子【実務経験者】
《授業概要》 介護実習Ⅰ-③では、利用者が地域で生活していくための支援体制を理解する実習とする。							《本教科で重要となるキーワード》 実習目標 施設実習 訪問介護実習 実習記録 利用者 家族 多職種協働	
《科目目標（総括目標・総括目標設定の理由）》 利用者の生活の場である多様な介護現場において、利用者の理解を中心とし、これに併せて利用者・家族との関わりを通じたコミュニケーションの実践、多職種協働の実践、介護技術の確認等を行う。								
《到達目標（具体的行動目標）》 1. 利用者を取り巻く家族や地域との関係に注目できる。 2. 利用者を取り巻く社会の支援体制が理解できる。								
授業回数	授業計画							授業外学習及び準備等
	<p>介護実習Ⅰ-③は次の目標をもち、実習形式で2年生前期に、訪問介護事業所において4日間行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 利用者とその家族の生活状況を理解できる。</li> <li>2. 居宅サービス計画に基づいた訪問介護サービスであることを理解できる。</li> <li>3. 利用者に関わっている多職種の役割を理解できる。</li> <li>4. 訪問介護における介護福祉士の役割を理解できる。</li> </ol>							
評価内容・方法	介護実習評価と指導における総合評価					国家試験の対策		
使用教科書	新・介護福祉士養成講座10 「介護総合演習・介護実習」（第3版） 中央法規出版		参考図書	授業の中で随時紹介する。				
学生へのメッセージ	健康管理に努め実習目標達成に向けて取り組む。		履修上の注意	4日間（32時間）の実習を行う。				

## 2019年度 介護福祉科 教科目概要（シラバス）

領域	授業科目	区分	時間数	開講時期				授業担当者
				1年		2年		
				前期	後期	前期	後期	
介護	介護実習Ⅱ	実習	192			●		池上千恵美【実務経験者】・ 小針臣子【実務経験者】・ 濱野厚子【実務経験者】
《授業概要》 介護実習Ⅱでは、介護実習Ⅰでの体験を踏まえながら、コミュニケーション技術や介護技術を用いて介護過程の展開を行う。							《本教科で重要となるキーワード》 実習目標 施設実習 訪問介護実習 実習記録 利用者 家族 多職種協働	
《科目目標（総括目標・総括目標設定の理由）》 一つの実習施設や事業所において、一定期間以上継続して実習を行う中で、利用者ごとの介護計画の作成、実施後の評価や、これを踏まえた計画の修正といった一連の介護過程のすべてを継続的に実践する。								
《到達目標（具体的行動目標）》 1. 介護過程を展開できる。 2. 個別ケアの意味を考え実践できる。 3. 多職種協働・連携の重要性を理解できる。 4. 生活支援は介護過程に基づいた専門的、計画的なものであることを理解できる。								
授業回数	授業計画						授業外学習及び準備等	
	<p>介護実習Ⅱは次の目標をもち、実習形式で2年生前期に24日間行う。</p> <p>1. 介護過程を展開できる。</p> <p>①観察、コミュニケーション、記録類を通して介護に必要な情報が収集できる。 ②一つ一つの情報のもつ意味を理解し、情報同士の関連付けができる。 ③利用者にとっての優先度を考え、生活課題が明確にできる。 ④利用者や多職種とともに介護計画が立案できる。 ⑤利用者の安全性、快適さ、自立に配慮した介護が実践できる。 ⑥介護目標が達成できたかの評価ができる。 ⑦具体的な援助内容が適切であったのかを評価できる。 ⑧計画を修正する必要があるかの判断ができる。</p> <p>2. 個別ケアの意味を考え実践できる。</p> <p>3. カンファレンスを通じて多職種協働・連携の重要性を理解できる。</p> <p>4. 夜勤介護を体験し、24時間を通しての利用者支援の実際を理解する。</p>							
評価内容・方法	介護実習評価と指導における総合評価				国家試験の対策			
使用教科書	新 介護福祉士養成講座10 「介護総合演習・介護実習」（第3版） 中央法規出版		参考図書	授業の中で随時紹介する。				
学生へのメッセージ	健康管理に努め実習目標達成に向けて取り組む。		履修上の注意	24日間（192時間）の実習を行う。				
<p><b>実務経験者としての経験を生かし、1. 介護過程を展開できる。2. 個別ケアの意味を考え実践できる。3. 職種協働・連携の重要性を理解できる。4. 生活支援は介護過程に基づいた専門的、計画的なものであることを理解できることを理解及び習得させる。</b></p>								

## 2019年度 介護福祉科 教科目概要（シラバス）

領域	授業科目	区分	時間数	開講時期				授業担当者
				1年		2年		
				前期	後期	前期	後期	
こころとからだのしくみ	発達と老化の理解	演習	30	●				大木淳子 【実務経験者】
《授業概要》				《本教科で重要となるキーワード》				
<ul style="list-style-type: none"> <li>人が生まれてから死に至るまでの発達段階における課題や特徴を踏まえ、老化に伴う身体的、心理的变化について学習する。また、老化に伴う心身機能の変化が、高齢者の心理や日常生活にどのような影響を及ぼすのかを考えていく。</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>発達段階</li> <li>発達理論</li> <li>生涯発達</li> <li>高齢者の多様性</li> </ul>				
《科目目標（総括目標・総括目標設定の理由）》								
<ul style="list-style-type: none"> <li>人間の成長と発達の観点から人の一生についての知識を習得することにより、ケアを必要とする人の理解が深まる。</li> <li>老化に伴う心身機能の変化がどのように日常生活に影響を与えるのかを理解することにより、個人を尊重した支援につながる。</li> </ul>								
《到達目標（具体的行動目標）》								
<ul style="list-style-type: none"> <li>人間の発達段階における一般的特徴を説明できる。</li> <li>生涯発達の考え方を説明できる。</li> <li>身体的、心理的、社会的状況が相互に影響して個人が存在していることを説明できる。</li> </ul>								
授業回数	授業計画						授業外学習及び準備等	
①	自己紹介（肩書ワーク） 介護×〇〇〇 介護の仕事						自身の長所、 介護のイメージを考えておく	
②	成長と発達・生涯発達の考え方						教科書P.2～16	
③	発達理論						教科書P.20～34・P.47～52	
④	発達にともなう特徴的な疾病や障害						教科書P.39～46	
⑤	発達段階における社会性の発達 愛着の発達						教科書P.55～65	
⑥	老年期の定義 老化とは						教科書P.70～79	
⑦	高齢者体験						レポート提出	
⑧	人格と尊厳・老いの価値						教科書P.80～93	
⑨	セクシュアリティ						教科書P.93～97	
⑩	記憶機能の変化と心理的影響						教科書P.147～155	
⑪	老化と動機づけ 適応						教科書P.155～161 試験範囲伝達	
⑫	社会の中での生活上の課題（介護問題）						教科書P.164～183	
⑬	社会からみた老年期						⑥～⑫を復習しておく	
⑭	考査							
⑮	高齢者介護の実際・まとめ						I-①実習を振り返る	
評価内容・方法	試験	小テスト	レポート	発表	作品・課題	授業態度・参加度	その他	国家試験の対策 誰がどんな発達段階説を唱えたのかを区別して覚えておく。
	60%	評価に加えず	10%	10%	10%	10%	なし	
使用教科書	最新 介護福祉士養成講座12 「発達と老化の理解」中央法規出版					参考図書	授業の中で適宜紹介していく。	
学生へのメッセージ	様々な価値観や考え方を知り、心が成長する時間にしましょう。					履修上の注意	他者の考えをよく聴き、否定しない。	
<p><b>介護職員（介護福祉士）としての勤務経験を生かし、人間の発達段階における一般的特徴を説明できる。・生涯発達の考え方を説明できる。・身体的、心理的、社会的状況が相互に影響して個人が存在していることを説明できる授業を行う。</b></p>								

## 2019年度 介護福祉科 教科目概要（シラバス）

領域	授業科目	区分	時間数	開講時期				授業担当者	
				1年		2年			
				前期	後期	前期	後期		
こころとからだのしくみ	発達と老化の理解	演習	30		●		大木淳子 【実務経験者】		
《授業概要》							《本教科で重要となるキーワード》		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・老年期にある人々を広い視野で捉えると共に、医学的側面からの実態にも迫る。</li> </ul>							<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康寿命</li> <li>・サクセスフルエイジング</li> <li>・高齢者特有の症候</li> </ul>		
《科目目標（総括目標・総括目標設定の理由）》									
<ul style="list-style-type: none"> <li>・老化にともなう身体的変化が与える生活への影響を理解できる。</li> <li>・高齢者に多い疾患の原因や症状を理解できる。</li> </ul>									
《到達目標（具体的行動目標）》									
<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者が持つ心身の特徴が説明できる。</li> <li>・さまざまな症状が日常生活へどのように影響するのかを説明できる。</li> </ul>									
授業回数	授業計画						授業外学習及び準備等		
①	健康長寿に向けての健康 健康寿命						教科書P.188～P.195		
②	高齢者の症状と疾患の特徴						教科書P.196～P.201		
③	目の疾患 耳の疾患						教科書P.223～P.226		
④	高齢者に多い骨折 骨粗鬆症						教科書P.202～P.208		
⑤	変形性関節症 リウマチ						教科書P.208～P.216		
⑥	歯・口腔疾患						教科書P.259～P.266		
⑦	パーキンソン病						教科書P.217～P.219		
⑧	脳血管疾患						教科書P.220～P.223		
⑨	心臓疾患						教科書P.228～P.234		
⑩	糖尿病						教科書P.251～P.254		
⑪	腎・泌尿器系疾患						教科書P.246～P.251		
⑫	呼吸器系疾患						教科書P.236～P.241		
⑬	認知症						認知症に関する記事を読んでおく		
⑭	考査								
⑮	総まとめ 介護福祉士の仕事						入学当初と現在の介護福祉士像の変化を考えておく		
評価内容・方法	試験	小テスト	レポート	発表	作品・課題	授業態度・参加度	その他	国家試験の対策	過去問を何度も繰り返し解くこと。
	60%	評価に加えず	10%	10%	10%	10%	無し		
使用教科書	最新 介護福祉士養成講座12 「発達と老化の理解」中央法規出版					参考図書	授業の中で適宜紹介していく。		
学生へのメッセージ	医学的な話が中心で難しいと感じるかもしれませんが、実習中に会った利用者を思い浮かべて取り組むと理解しやすいです。					履修上の注意	配布資料が多いので、ファイリングすること。		

## 2019年度 介護福祉科 教科目概要（シラバス）

領域	授業科目	区分	時間数	開講時期				授業担当者
				1年		2年		
				前期	後期	前期	後期	
こころとからだのしくみ	認知症の理解	演習	30			●		大澤町子 【実務経験者】
《授業概要》 認知症の本質や認知症の人の心理状態、認知症特有な症状やケア、認知症を取り巻く社会環境などを理解し、認知症の人に対する適切な全人的ケアを提供できるようになる知識を伝えます。病識低下という認知症特有の課題、認知症終末期には、運動麻痺や嚥下障害をとめない、それが死因になるという課題。原因疾患を知ることが介護負担の軽減になることを説明。				《本教科で重要となるキーワード》 認知症とは何かをしっかりと理解する。認知症の症状（中核症状・BPSD）原因疾患。当事者の思いや視点の理解。				
《科目目標（総括目標・総括目標設定の理由）》 認知症とはなにか。脳の仕組み脳の構造機能と症状の関係、認知症の人の心理を理解できる。認知症の症状（中核症状・BPSD）の理解、認知症の原因疾患と症状・生活障害、治療薬、認知症予防について学習する。認知症を取り巻く状況や認知症ケアの理念と視点について理解し、認知症当事者の視点から認知症の人の思いを理解する。								
《到達目標（具体的行動目標）》 脳の仕組みや脳の構造と症状の関係、認知症の人の心理を理解して、それを説明することが出来る。認知症の中核症状・生活障害・BPSDの理解を学習できて、それについて説明をすることが出来る。認知症の診断と重症度、原因疾患と治療薬について知識を持つことができ、認知症の予防の重要度が理解できる。認知症を取り巻く状況や認知症ケアの理念と視点について理解し、特に認知症当事者の思いや視点を十分に理解して、それを説明できるようになる。								
授業回数	授業計画						授業外学習及び準備等	
①	オリエンテーション、認知症とは何か 認知症の定義と診断基準 認知症の症状の全体像 認知症の特徴						P2～P11通読	
②	脳のしくみ 脳の構造・機能						アルツハイマー型認知症他 P12～P24通読	
③	認知症の人の心理						P25～P29通読 DVD視聴 レポート用紙作成	
④	認知症の症状・診断・治療・予防 中核症状の理解						P32～P39通読 認知症の中核症状	
⑤	生活障害の理解 BPSDの理解						P40～P50通読	
⑥	BPSDの理解						P50～P61通読	
⑦	認知症の診断と重症度						P62～P71通読	
⑧	認知症の原因疾患と症状・生活障害						P72～P86通読	
⑨	認知症の治療薬 認知症の予防						P87～P97通読	
⑩	認知症の予防 認知症予防運動 認知症を防ぐ食生活						コグニサイズ チェックリスト	
⑪	認知症を取り巻く状況 これまで一今一これから 認知症ケアの理念と視点						P100～P120通読	
⑫	認知症当事者の視点から見えるもの						認知症の人から学ぶ DVD視聴 クリスティーンプライデン講演より	
⑬	前期総復習						P2～P138通読	
⑭	定期試験						前期試験	
⑮	試験答案返し、解説・後期に向けて						解答・解説のレジュメ	
評価内容・方法	試験	小テスト	レポート	発表	作品・課題	授業態度・参加度	その他	国家試験の対策
	60%	なし	10%	なし	なし	30%	なし	
使用教科書	最新 介護福祉士養成講座13 「認知症の理解」中央法規出版				参考図書	介護福祉士国試ナビ		
学生へのメッセージ	豊かな知識と確かな技術、クールヘッドと熱いハート、笑顔を忘れずに利用者の生きる意欲を引き出せるような介護職を目指しましょう				履修上の注意			
<p><b>介護職員（介護福祉士）及び介護支援専門員としての勤務経験を生かし、脳の仕組みや脳の構造と症状の関係、認知症の人の心理を理解して、それを説明することが出来る。認知症の中核症状・生活障害・BPSDの理解を学習できて、それについて説明をすることが出来る。認知症の診断と重症度、原因疾患と治療薬について知識を持つことができ、認知症の予防の重要度が理解できる。認知症を取り巻く状況や認知症ケアの理念と視点について理解し、特に認知症当事者の思いや視点を十分に理解して、それを説明できるようになる授業を行う。</b></p>								

## 2019年度 介護福祉科 教科目概要（シラバス）

領域	授業科目	区分	時間数	開講時期				授業担当者	
				1年		2年			
				前期	後期	前期	後期		
こころとからだのしくみ	認知症の理解	演習	30				●	大澤町子 【実務経験者】	
《授業概要》									
認知症ケアの目指すところは「認知症の人が笑顔で楽しく生きられる」だけでなく「家族介護者や施設介護者、介護支援専門員（ケアマネージャー）など支援する人々が笑顔で生きられること」です。そのためには、正しい知識を身に付ける必要があります。									
《本教科で重要となるキーワード》 「パーソン・センタード・ケア」 認知症アセスメント・センター方式。 ユニマチュードなどのさまざまなアプローチ。									
《科目目標（総括目標・総括目標設定の理由）》									
認知症ケアの理念で最も世界的に知られている「パーソン・センタード・ケア」を理解し、認知症の人の心理的ニーズを理解する。認知症の人の特性をふまえたアセスメント・ツリーを学習する。認知症の人とのコミュニケーションの基本的な事柄や留意点について理解できる。具体的な認知症の人へのケア方法（ユニマチュード、バリデーション等）を習得する。終末期医療と介護について理解する。介護者支援、介護福祉職への支援、認知症の人への地域支援についても学習して理解できる。									
《到達目標（具体的行動目標）》									
「パーソン・センタード・ケア」について理解出来て説明できる。認知症の人の心理的ニーズを理解して、認知症の人の特性をふまえたアセスメント・シートを学習して習熟出来て、実際に活用できる。具体的な認知症の人へのケア方法を身に付けて、それを説明することが出来る。認知症の終末期医療と介護法歩を理解し説明できる。介護者支援、介護福祉職への支援、認知症の人への地域支援、制度、サービス、機関、地域づくり、多職種連携や協働についても理解し説明できる。									
授業回数	授業計画							授業外学習及び準備等	
①	認知症ケアの実際、パーソン・センタード・ケア							P140～P148通読	
②	認知症の人の理解と認知症の人の特性をふまえたアセスメント・ツール センター方式、ひもときシート							P149～P180通読	
③	認知症の人とのコミュニケーション							P181～P187通読 DVD視聴 レポート用紙作成	
④	認知症の人へのケア（食事、排泄、入浴、清潔保持、休息と睡眠のケア）							P188～P208通読	
⑤	認知症の人へのケア（活動・生きがいのケア、BPSDのケア）							P208～P216通読	
⑥	認知症の人へのさまざまなアプローチ（ユニマチュード、バリデーション）							P218～P224通読 DVD視聴 レポート作成用紙	
⑦	認知症の人へのさまざまなアプローチ（認知症ケア・マッピング、回想法、聞き書き）							P224～P235通読	
⑧	認知症の人の終末期医療と介護 環境づくり							P237～P256通読	
⑨	介護者支援 家族への支援							P258～P276通読	
⑩	介護者支援 介護福祉職への支援							P276～P291通読	
⑪	認知症の人の地域生活支援 制度、サービス、機関、地域づくり（若年性認知症の人への支援）							P294～P305通読 僕が前を向いて歩く理由	
⑫	認知症の人の地域生活支援 多職種連携と協働							P306～P323通読	
⑬	後期総復習							P140～P323通読	
⑭	定期試験							後期試験	
⑮	試験答案返し、解説・後期に向けて							解答・解説のレジュメ	
評価内容・方法	試験	小テスト	レポート	発表	作品・課題	授業態度・参加度	その他	国家試験の対策	毎回介護福祉士模擬問題を4問出題し、解説。
	60%	なし	10%	なし	なし	30%	なし		
使用教科書	最新 介護福祉士養成講座13 「認知症の理解」中央法規出版					参考図書	介護福祉士国試ナビ		
学生へのメッセージ	豊かな知識と確かな技術、クールヘッドと熱いハート、笑顔を忘れずに利用者の生きる意欲を引き出せるような介護職を目指しましょう					履修上の注意			

## 2019年度 介護福祉科 教科目概要（シラバス）

領域	授業科目	区分	時間数	開講時期				授業担当者
				1年		2年		
				前期	後期	前期	後期	
こころとからだのしくみ	障害の理解Ⅱ	講義	30				●	小針臣子 【実務経験者】
《授業概要》 障害のある人（視覚障害、聴覚障害、言語障害、重複障害、肢体不自由、内部障害、知的障害、精神障害、高次脳障害、発達障害、重症心身障害、難病）の種類、原因、特性を主に医学的側面から理解し、障害が及ぼす心理的影響について考え、本人及び家族への自立生活支援の実践に向けて、講義と意見交換を行う。基礎知識の定着を図るため小テストを実施する。							《本教科で重要となるキーワード》 「バリアフリー」「自立」「障壁」「障害受容」「ピアサポート」「ノーマライゼーション」「ソーシャルインクルージョン」「共生社会」「障害の種類」「障害の原因」「障害の特性」「チームアプローチ」「地域生活」	
《科目目標（総括目標・総括目標設定の理由）》 障害によるバリア（障壁）は、個人の課題ではなく自助から公助までの過程を通じて環境の調整や制度の活用によって自分らしい自立した生活の実現のための支援を生み出すことができる。 障害種別ごとの身体的・心理的側面をふまえた生活とそれに応じた支援について学ぶ。 障害のある人の地域生活を支えるさまざまな社会資源・関係機関との連携、関係職種とのチームアプローチのありかたについて学ぶ。								
《到達目標（具体的行動目標）》 ①障害の種類、原因、特性に関する基礎知識を習得し、対象者の理解の根拠として活用することができる。 ②障害が及ぼす心理的影響（障害受容も含む）について、本人および家族への理解・共感し、サポートすることができる。 ③障害による障壁を壊す、低くする支援をあきらめずに共に考えることができる。								
授業回数	授業計画						授業外学習及び準備等	
①	授業説明（授業の概要、進め方、評価基準等） 障害ってなんだろう？ 障害のある人の心理							
②	肢体不自由とは（障害の種類・原因）身体的特性の理解 障害の原因となる主な疾患 心理的側面の理解 生活面の理解 障害特性に応じた支援							
③	視覚障害とは（障害の種類・原因）障害の特性の理解 障害の特性に応じた支援							
④	聴覚・言語障害のある人の生活						小テスト	
⑤	重複障害とは（障害の原因・種類）重複障害児への支援							
⑥	内部障害（心機能障害 呼吸機能障害 腎機能障害 膀胱・直腸障害 小腸機能障害 ヒト免疫不全ウイルスによる免疫機能障害 肝機能障害）							
⑦	重症心身障害とは（障害の原因と分類・種類）障害の特性の理解 障害の特性に応じた支援						小テスト	
⑧	知的障害とは 障害の原因 障害の特性に応じた支援 ライフステージに応じたかかわり方							
⑨	精神障害とは 障害の種類 障害の特性の理解 障害の特性に応じた支援							
⑩	高次脳機能障害とは 障害の種類 障害の特性の理解 障害の特性に応じた支援						小テスト	
⑪	発達障害とは 障害ごとの特性の理解 障害の特性に応じた支援							
⑫	難病とは おもな難病の種類 難病の特性の理解 難病の特性に応じた支援							
⑬	障害のある人の生きる力を支える多職種連携と協働						小テスト	
⑭	定期試験							
⑮	試験解説							
評価内容・方法	試験	小テスト	レポート	発表	作品・課題	授業態度・参加度	その他	国家試験対策としては、障害の医学的側面からの基本的な知識の習得と、自立支援の視点が重要です。過去問題やワークブック等で復習をしましょう。
	70%	10%	なし	なし	10%	10%	なし	
使用教科書	最新 介護福祉士養成講座14 「障害の理解」中央法規出版					参考図書	授業内で随時案内します。	
学生へのメッセージ	障害に対する正しい知識を根拠に、障害とは個人の課題ではなく環境を変えていくことで解決できる、あきらめない支援を共に考えていくことが、その人らしい自立した生活の実現であることを学びましょう。					履修上の注意	障害があるからではなく、障害があってもなくても必要なら支援することを意識しましょう。日頃の生活でも、障害のある方への関心を寄せましょう。配布資料は、ファイルなどにまとめましょう。	
<b>看護師として施設、企業、老人介護支援センター及び地域包括支援センターでの実務経験を生かし、①障害の種類、原因、特性に関する基礎知識を習得し、対象者の理解の根拠として活用することができる。②障害が及ぼす心理的影響（障害受容も含む）について、本人および家族への理解・共感し、サポートすることができる。③障害による障壁を壊す、低くする支援をあきらめずに共に考えることができる授業を行う。</b>								

## 2019年度 介護福祉科 教科目概要（シラバス）

領域	授業科目	区分	時間数	開講時期				授業担当者
				1年		2年		
				前期	後期	前期	後期	
こころとからだのしくみ	こころとからだのしくみⅢ	講義	30				●	小針臣子 【実務経験者】
《授業概要》 こころとからだのしくみの基礎的な知識をもとに、移動、身じたく、食事、排せつ、休息・睡眠等の生活場面ごとに、心身の機能の低下や障害が生活に及ぼす影響、変化に対する観察のポイント、医療職との連携のポイントを学ぶため、「なぜ」「なにが」「どうなったから」「どうする」の流れで授業を進める。受け身ではなく、自ら気づきケアの実践ができるよう考える授業の展開をしていく。介護現場での事例なども授業内で紹介していく。				《本教科で重要となるキーワード》 「身じたく」「移動」「食事」 「入浴・清潔保持」「排泄」「睡眠」 「変化」「気づき」「連携」「自立」				
《科目目標（総括目標・総括目標設定の理由）》 生活機能に関連したこころとからだのしくみを理解したうえで、心身機能の低下や障害が及ぼす影響と対応について、根拠をもち、「自立支援」「介護予防」の視点をもった考え方、およびケアを考えることができる。ケアの提供における安全への留意点や心理的側面への配慮について習得する。								
《到達目標（具体的行動目標）》 ①こころとからだのしくみの基礎知識を根拠として具体的なケアと結び付けて考えることができる。 ②こころとからだのしくみの基礎知識を根拠として利用者を観察し、変化に気づき、医療職等と連携することができる。 ③こころとからだのしくみの基礎知識を根拠として利用者の心身機能の低下や障害を理解することで自立支援の視点をもったケアを考えることができる授業を行う。								
授業回数	授業計画						授業外学習及び準備等	
①	授業説明（授業の概要、進め方、評価基準等）							
②	身じたくに関連したしくみ①							
③	身じたくに関連したしくみ②							
④	移動に関連したしくみ①							
⑤	移動に関連したしくみ②							
⑥	食事に関連したしくみ①						小テスト	
⑦	食事に関連したしくみ②							
⑧	入浴・清潔保持に関連したしくみ①							
⑨	入浴・清潔保持に関連したしくみ②							
⑩	排せつに関連したしくみ①						小テスト	
⑪	排せつに関連したしくみ②							
⑫	睡眠に関連したしくみ①							
⑬	睡眠に関連したしくみ②						小テスト	
⑭	定期試験							
⑮	定期試験の振り返り							
評価内容・方法	試験	小テスト	レポート	発表	作品・課題	授業態度・参加度	その他	国家試験の対策 小テスト、練習問題を実施します。過去問題やワークブック等で復習をしましょう。
	70%	10%	なし	なし	10%	10%	なし	
使用教科書	新 介護福祉士養成講座14 「こころとからだのしくみ」（第3版） 中央法規出版					参考図書		
学生へのメッセージ	こころとからだⅠで学んだ内容が基礎となるので、結びつけて考えられるとよいです。また、自分の行うケアの根拠となる授業です。根拠を身に着けることは、気づくことができる、ケアに「チカラ」を与えます。					履修上の注意		生活支援技術Ⅲ、生活支援技術Ⅳ、生活支援技術Ⅴとの関連がある科目です関連付けてまなびましょう。配布された資料はファイル等にまとめましょう。
<p>看護師として施設、企業、老人介護支援センター及び地域包括支援センターでの実務経験を生かし、①こころとからだのしくみの基礎知識を根拠として具体的なケアと結び付けて考えることができる。②こころとからだのしくみの基礎知識を根拠として利用者を観察し、変化に気づき、医療職等と連携することができる。③こころとからだのしくみの基礎知識を根拠として利用者の心身機能の低下や障害を理解することで自立支援の視点をもったケアを考えることができる授業を行う。</p>								

## 2019年度 介護福祉科 教科目概要（シラバス）

領域	授業科目	区分	時間数	開講時期				授業担当者
				1年		2年		
				前期	後期	前期	後期	
医療的ケア	医療的ケアⅠ	講義	50	●				小針臣子 【実務経験者】
《授業概要》 なぜ、介護福祉士が医療的ケアを実施するようになったのか社会的背景と法改正の流れを理解し、医療チームの一員としての倫理観を持てるよう講義をするとともに自らの言葉でも表現できるように振り返りを行う。医療的ケアを安全に安楽な方法で実施するために必要な知識と技術をまなび、医療的ケアを受ける人の気持ちに寄り添えるよう、適宜、グループディスカッションや実際の器具に触れたり、映像を見るなどして学習を深める。				《本教科で重要となるキーワード》 「医行為」「医の倫理」「尊厳」「説明と同意」「安全」「事故対策」「スタンダードプリコーション」「清潔保持」「消毒・滅菌」「感染予防」「急変」「実施手順」				
《科目目標（総括目標・総括目標設定の理由）》 医療的ケアを実施する法的根拠や医行為を行うために必要な倫理観を醸成する。 医療的ケアの演習を安全に安楽な方法で実施するために必要な知識と技術の基礎を習得する。医療的ケアを受ける人の不安な気持ちに寄り添い、安心されるケアを提供できるように、根拠をしっかりと学び説明したり、必要時には代弁者となることを理解し、介護福祉士としての医療チーム内での役割が理解できる。								
《到達目標（具体的行動目標）》 ①介護福祉士が医療的ケアを実施することになった背景を理解し、医療チームの一員としての倫理観を持ち、尊厳に配慮した行動ができる。 ②医療チームの一員として自分の役割を認識し、適切な連携の具体的方法を説明できる。 ③安全で安楽なケア実施のために必要な基礎的な知識、実施手順を身につけ、根拠に基づいたケアの実施についてわかりやすく説明することができる。								
授業回数	授業計画						授業外学習及び準備等	
①	授業説明（授業の概要、進め方、評価基準等） 医療的ケア実施の基礎 医療的ケアとは							
②	医行為について						課題	
③	喀痰吸引等制度（社会福祉士及び介護福祉士法の改正）							
④	医療的ケアと喀痰吸引の背景 その他の制度							
⑤	安全な療養生活 喀痰吸引や経管栄養の安全な実施						小テスト 課題	
⑥	救急蘇生						課題	
⑦	清潔保持と感染予防 感染予防						小テスト	
⑧	介護福祉職の感染予防						課題	
⑨	療養環境の清潔・消毒法							
⑩	消毒と滅菌						小テスト 課題	
⑪	健康状態の把握 身体・精神の健康							
⑫	健康状態を知る項目（バイタルサインなど） 急変状態について						課題	
⑬	試験対策						小テスト	
⑭	定期試験							
⑮	定期試験の振り返り 夏休みの課題							
評価内容・方法	試験	小テスト	レポート	発表	作品・課題	授業態度・参加度	その他	国家試験の対策 小テスト、練習問題を実施します。国家試験受験ワークブックも復習に活用しましょう。
	70%	10%	なし	なし	10%	10%	なし	
使用教科書	最新 介護福祉士養成講座15 「医療的ケア」中央法規出版				参考図書			介護福祉士国家試験受験ワークブック2020上 随時授業内で参考図書の紹介をします。
学生へのメッセージ	人の生きる力を支えるために必要な科目です。今後増々必要となってきます。安全なケアを提供するために必要な根拠となる知識を学び、演習が行えるようにしましょう。				履修上の注意			ここからだのしくみ、生活支援技術、介護の基本Ⅱ、介護の基本Ⅲとの関連が深い科目です。関連付けて学習しましょう。人の命に関わる科目です。真剣に学びましょう。配布された資料はファイルなどにまとめましょう。
看護師として施設、企業、老人介護支援センター及び地域包括支援センターでの実務経験を生かし、①介護福祉士が医療的ケアを実施することになった背景を理解し、医療チームの一員としての倫理観を持ち、尊厳に配慮した行動ができる。②医療チームの一員として自分の役割を認識し、適切な連携の具体的方法を説明できる。③安全で安楽なケア実施のために必要な基礎的な知識、実施手順を身につけ、根拠に基づいたケアの実施についてわかりやすく説明することができる授業を行う。								

## 2019年度 介護福祉科 教科目概要（シラバス）

領域	授業科目	区分	時間数	開講時期				授業担当者
				1年		2年		
				前期	後期	前期	後期	
医療的ケア	医療的ケアⅠ	講義	50		●			小針臣子 【実務経験者】
《授業概要》 なぜ、介護福祉士が医療的ケアを実施するようになったのか社会的背景と法改正の流れを理解し、医療チームの一員としての倫理観を持てるよう講義をすることも自らの言葉でも表現できるように振り返りを行う。医療的ケアを安全に安楽な方法で実施するために必要な知識と技術をまなび、医療的ケアを受ける人の気持ちに寄り添えるよう、適宜、グループディスカッションや実際の器具に触れたり、映像を見るなどして学習を深める。				《本教科で重要となるキーワード》 「医行為」「医の倫理」「尊厳」「説明と同意」「安全」「事故対策」「スタンダードプリコーション」「清潔保持」「消毒・滅菌」「感染予防」「急変」「実施手順」				
《科目目標（総括目標・総括目標設定の理由）》 医療的ケアを実施する法的根拠や医行為を行うために必要な倫理観を醸成する。 医療的ケアの演習を安全に安楽な方法で実施するために必要な知識と技術の基礎を習得する。医療的ケアを受ける人の不安な気持ちに寄り添い、安心されるケアを提供できるように、根拠をしっかりと学び説明したり、必要時には代弁者となることを理解し、介護福祉士としての医療チーム内での役割が理解できる。								
《到達目標（具体的行動目標）》 ①介護福祉士が医療的ケアを実施することになった背景を理解し、医療チームの一員としての倫理観を持ち、尊厳に配慮した行動ができる。 ②医療チームの一員として自分の役割を認識し、適切な連携の具体的方法を説明できる。 ③安全で安楽なケア実施のために必要な基礎的な知識、実施手順を身につけ、根拠に基づいたケアの実施についてわかりやすく説明することができる。								
授業回数	授業計画						授業外学習及び準備等	
①	高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論 呼吸のしくみとはたらき 喀痰吸引とは						課題	
②	人工呼吸器と吸引							
③	吸引を受ける利用者や家族の気持ちと対応・説明と同意 子どもの吸引について							
④	呼吸系の感染と予防（吸引と関連して）喀痰吸引により生じる危険、事後の安全確認						小テスト 課題	
⑤	高齢者および障害児・者の喀痰吸引実施手順解説 喀痰吸引で用いる器具・器材とそのしくみ						課題	
⑥	喀痰吸引の技術と留意点							
⑦	喀痰吸引に伴うケア 報告及び記録						課題	
⑧	高齢者および障害児・者の経管栄養概論 消化器系のしくみとはたらき 経管栄養とは						小テスト 課題	
⑨	経管栄養実施上の留意点 子どもの経管栄養 経管栄養に関係する感染と予防							
⑩	経管栄養を受ける利用者や家族の気持ちと対応、説明と同意 経管栄養によって生じる危険、事後の安全確認						課題	
⑪	高齢者および障害児・者の経管栄養実施手順解説 経管栄養で用いる器具・器材とそのしくみ、清潔の保持							
⑫	経管栄養の技術と留意点 経管栄養に必要なケア						課題	
⑬	試験対策						小テスト	
⑭	定期試験							
⑮	試験解説・振り返り 集中講義について							
⑯⑰	医療的ケアⅡ 演習オリエンテーション 手順の確認						グループ別 演習の身だしなみ	
⑱⑲	医療的ケアⅡ 演習オリエンテーション 手順の確認						グループ別 演習の身だしなみ	
評価内容・方法	試験	小テスト	レポート	発表	作品・課題	授業態度・参加度	その他	国家試験の対策 小テスト、練習問題を実施します。 国家試験受験ワークブックも復習に活用しましょう。
	70%	10%	なし	なし	10%	10%	なし	
使用教科書	最新 介護福祉士養成講座15 「医療的ケア」中央法規出版				参考図書	介護福祉士国家試験受験ワークブック2020上 随時授業内で参考図書の紹介をします。		
学生へのメッセージ	人の生きる力を支えるために必要な科目です。今後増々必要となってきます。 安全なケアを提供するために必要な根拠となる知識を学び、演習が行えるようにしましょう。				履修上の注意	こころとからだのしくみ、生活支援技術、介護の基本Ⅱ、介護の基本Ⅲとの関連が深い科目です。関連付けて学習しましょう。人の命に関わる科目です。真剣に学びましょう。 配布された資料はファイルなどにまとめましょう。		

## 2019年度 介護福祉科 教科目概要（シラバス）

領域	授業科目	区分	時間数	開講時期				授業担当者	
				1年		2年			
				前期	後期	前期	後期		
医療的ケア	医療的ケアⅡ	演習	30			●		小針臣子【実務経験者】・宮崎弘美	
《授業概要》 1年次に学んだ内容をもとに演習を実施し、評価票に基づいて評価を行う。							《本教科で重要となるキーワード》 「安全」「安楽」「根拠」「プライバシー」「尊厳」「自己決定」「説明・同意」「報告」「実施手順」		
《科目目標（総括目標・総括目標設定の理由）》 医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な根拠を理解し、正しい手順で行うことができる。知識、技術のみではなく、利用者の状況に寄り添い、不安を軽減できるようにわかりやすい言葉での説明・同意を得られるような声掛けができる。 利用者のプライバシー・尊厳・自己決定を尊重した態度がとれる。									
《到達目標（具体的行動目標）》 ①医療的ケアを安全・的確に実施するための技術の実践できる。 ②1つ1つの行為、手順の根拠を述べることができる。 ③利用者のプライバシーに配慮した行動ができる。 ④利用者の尊厳や人権に配慮した行動ができる。									
授業回数	授業計画							授業外学習及び準備等	
①②	A①経管栄養演習/②喀痰吸引演習 B①喀痰吸引演習/②経管栄養演習								
③④	A①経管栄養演習/②喀痰吸引演習 B①喀痰吸引演習/②経管栄養演習								
⑤⑥	A①経管栄養演習/②喀痰吸引演習 B①喀痰吸引演習/②経管栄養演習								
⑦⑧	A①経管栄養演習/②喀痰吸引演習 B①喀痰吸引演習/②経管栄養演習								
⑨⑩	A①経管栄養演習/②喀痰吸引演習 B①喀痰吸引演習/②経管栄養演習								
⑪⑫	A①経管栄養演習/②喀痰吸引演習 B①喀痰吸引演習/②経管栄養演習								
⑬⑭	A①経管栄養演習/②喀痰吸引演習 B①喀痰吸引演習/②経管栄養演習								
⑮⑯	A①経管栄養演習/②喀痰吸引演習 B①喀痰吸引演習/②経管栄養演習								
⑰⑱	A①経管栄養演習/②喀痰吸引演習 B①喀痰吸引演習/②経管栄養演習								
⑲⑳	A①経管栄養演習/②喀痰吸引演習 B①喀痰吸引演習/②経管栄養演習								
㉑㉒	A①経管栄養演習/②喀痰吸引演習 B①喀痰吸引演習/②経管栄養演習								
㉓㉔	A①経管栄養演習/②喀痰吸引演習 B①喀痰吸引演習/②経管栄養演習								
㉕㉖	A①経管栄養演習/②喀痰吸引演習 B①喀痰吸引演習/②経管栄養演習								
㉗㉘	A①経管栄養演習/②喀痰吸引演習 B①喀痰吸引演習/②経管栄養演習								
㉙㉚	全体振り返り								
評価内容・方法	試験	小テスト	レポート	発表	作品・課題	授業態度・参加度	その他	国家試験の対策	実施手順の根拠を意識しながら行うことが国家試験対策にもなります。
	80%	なし	なし	なし	なし	10%	10%		
使用教科書	新 介護福祉士養成講座15 「医療的ケア」（第3版） 中央法規出版					参考図書	最新介護福祉士養成講座15医療的ケアAR動画		
学生へのメッセージ	人の生きる力を支えるための知識・技術を習得するための授業です。根拠に基づいた行動が安全・安心につながることを自覚して授業に臨みましょう。					履修上の注意	演習に必要なものを持参しなかった場合は、授業に出席はできませんが、演習の評価は実施できません。演習の進捗により授業変更する場合があります。		
<b>看護師として施設、企業、老人介護支援センター及び地域包括支援センターでの実務経験を生かし、①医療的ケアを安全・的確に実施するための技術の実践できる。②1つ1つの行為、手順の根拠を述べることができる。③利用者のプライバシーに配慮した行動ができる。④利用者の尊厳や人権に配慮した行動ができる授業を行う。</b>									